

2012

近畿双松会報

2012(平成24)年度会報

島根県立松江中学校

島根県立松江高等学校

島根県立松江北高等学校





2012(平成24)年度 近畿双松会報

目 次

| | |
|--|----|
| 2012(平成24)年度 近畿双松会「総会 懇親会」次第 | 2 |
| 2012(平成24)年度 「総会 懇親会」報告(兼)年間活動方針報告 | 3 |
| 2012(平成24)年度 「総会 懇親会」出席者 | 8 |
| ご挨拶 | 11 |
| ご挨拶 押田 良樹 近畿双松会会長 | |
| 来賓ご挨拶 庄 司 肇 双松会会長 | |
| 河原 一朗 松江北高校校長 | |
| 2012(平成24)年度「総会 懇親会」記念写真 | 14 |
| テーブル別スナップ | 18 |
| スナップ | 21 |
| 総会議事(1) 2012(平成24)年度 活動事業報告 | 24 |
| 総会議事(2) 2012(平成24)年度 会計報告・監査報告 | 25 |
| 総会議事(3) 会則の改訂 | 26 |
| 新しい会則 | 27 |
| 総会議事(4) 2012(平成24)年度 役員一覧 | 29 |
| 追悼 物故会員 | 30 |
| 平成24年度 寄付・広告等、会費外の賛助者ご芳名 | 31 |
| 講演「古事記～はじまりの物語」本間 恵美子(高19) | 32 |
| 2012(平成24)年度 諸行事報告 | 38 |
| 「里山歩くぞ!ハイキング」柳生の巻に参加して 今藤 美富(高28) | 43 |
| 歴史ウォーキング「清盛in神戸」に参加して 元栄 徹(高19) | 45 |
| 2013(平成25)年度 「事務局会議有志」新年会 | 46 |
| 2013(平成25)年度 近畿双松会「新年役員懇親会」 | 47 |
| 平成24年度 松江北高十大ニュース(日付順) | 48 |
| 寄稿「フランス横断の旅」村尾 俊治(高11) | 50 |
| 同期会便り(高9・16・22期) | 54 |
| 「こんにちは、仲間入りです」 | 56 |
| 大浦 綾子(高22) / 竹江 章(高34) | |
| 近況報告 | 57 |
| 編集後記 | 64 |

2012(平成24)年度 近畿双松会「総会 懇親会」次第

2012(平成24)年11月10日(土) 正午～午後3時45分
於：中央電気倶楽部5Fホール

◆第一部「総会」(正午～12時45分) 司会 三好 資子 常任幹事 (高20)

1. 開会の辞：
2. 物故者黙祷：
3. ご来賓紹介： 庄 司 肇 様(双松会 会長)
金 平 憲 様(双松会 幹事長)
河 原 一 朗 様(松江北高校(新)校長)
伊 藤 浩 様(松江北高校教諭・双松会校内幹事長)
泉 宏 佳 様(東京双松会代表)
本間 恵美子 様(島根県立八雲立つ風土記の丘所長)
売 豆 紀 修 様(島根県大阪事務所長)
竹 谷 奨 様(近畿松江会 事務局長)
4. ご挨拶 : 近畿双松会 会長 押田 良樹 (高11)
5. ご挨拶(祝辞) : 双松会 会長 庄 司 肇 様(高11)
" 松江北高校(新)校長 河 原 一 朗 様(高23)
6. 議事：・議長の選任：
 - ・議事(1)：活動報告 松本耕司 事務局長(高16)
 - ・議事(2)：会計報告・監査報告 松本事務局長 梅木隆志 監事(高16)
 - ・議事(3)：会則の改訂 松本事務局長
 - ・議事(4)：役員改選 "
7. 閉会の辞

◆第二部「講演会」(12時50分～13時35分) 司会 渡辺 悟 副会長 (高20)

【講師】：本間恵美子さん(高19) 【演題】「古事記～はじまりの物語」
「島根県立八雲立つ風土記の丘所長、慶應大学卒、NPO法人出雲学研究所副理事長、松江城姉さま鉄砲隊隊長」

<休憩 10分>

◆第三部「懇親会」(13時45分～15時45分) 司会 松本 潤 副会長 (高23)

1. 本年度活動状況の映像紹介：
[制作]土田和男 常任幹事(高16)
「会員の荒井悦加さん(高51)の日本チャンピオン誕生の瞬間の動画を上映」
2. 乾杯：[音頭]双松会 金平憲 幹事長(高16)
3. 会食・懇親：
4. スピーチ：
5. 記念写真撮影：
6. 校歌斉唱：「赤山健児の歌／山脈浮かびて(全曲)」
7. 万歳三唱：[音頭]荒銀 昌治さん(中68)

<終了解散：15時45分>

2012(平成24)年度「総会 懇親会」報告(兼)年間活動方針報告

事務局長 松本耕司(高16)

1. 2012(平成24)年度 新年役員懇親会(年間活動方針)

恒例の新年役員懇親会は、平成24年1月19日(木)に23名の役員が出席して中央電気倶楽部で開催され、下記のような運営骨子を了解いただきました。

[平成24年度 運営の基本]

来年度が設立55周年の記念すべき年であることから、その直前年として体制の整備に努める。

- ①北高世代の方々が総会や懇親会に多数参加いただけるよう「周知PR活動を強化」する。
- ②そのため、クローズな印象を与えている「会則」を、オープンで持続性を確保できるものに改訂する。(後掲)
- ③役員の改選年であることから、実効ある運営、活動をめざし、「役員体制の充実」に努める。
- ④総会懇親会以外の諸行事も例年通り推進する。

[ご出席の役員]

常任顧問 山本雅昭(高7) 会長 押田良樹(高11) 副会長 松本耕司(高16)・渡辺悟(高20)・松本潤(高23) 監事 梅木隆志(高16) 幹事 青戸元也(中68) 常任幹事 菊田運三郎(高1) 幹事 竹森英二(高2) 常任幹事 山田稔(高5) 常任幹事 廣政俣彦(高7) 幹事 山崎昶(高8) 常任幹事 木村八重子(高9) 幹事 萩野貫悟(高12) 常任幹事 加藤巡一(高14) 常任幹事 金坂喜好(高15) 常任幹事 土田和男(高16) 幹事 三成宏二(高16) 常任幹事 岩田一志(高19) 幹事 池田喜美代(高19) 常任幹事 三好資子(高20) 常任幹事 宍道弘志(高31) 幹事 西村英明(高31) 以上23名

2. 本年度開催の諸行事

⇒別掲で報告

3. 2012(平成24)年度「総会・懇親会」

平成24年11月10日(日) 正午～午後3時45分 於：中央電気倶楽部5Fホール

中央電気倶楽部での開催は2年連続3度目となります。会場となった本館建物は「大大阪時代」の昭和5年に建てられた歴史的建造物として、平成21年2月に「近代化産業遺産」に認定されています。落ち着いた風雪を感じる建物が近畿双松会の例会にはよく似合うということで、本年も開催の運びとなりました。

当日は、中63期から本年卒業の高63期(学生ゲスト)までの年齢差68年という幅広い年代の会員114名(昨年99名)が参加され、レトロな雰囲気の漂う会場で年代を超えた交流を活発に楽しくおこなっていただきました。(参加者名簿は別掲)



4. 第一部：「2012(平成24)年度総会」

第一部は三好資子さん(高20)の司会で開会し、まず、この1年間で事務局にご連絡のあった物故者の方々(後掲)に黙祷を捧げました。

続いてはご来賓の紹介で、松江から双松会の庄司肇会長(高11)、金平憲幹事長(高16)、母校松江北高からはこの春着任された河原(ごうばら)一朗校長(高23)、伊藤浩教諭(高28・双松会校内幹事長)、講演をお願いした島根県立八雲立つ風土記の丘所長の本間恵美子さん(高19)、東京双松会を代表されて表敬にお見えいただいた泉宏佳さん(高14)、島根県大阪事務所の売豆紀修所長、近畿松江会の竹谷奨事務局長の8名のご来賓に盛大な歓迎の拍手が送られました。

続いて当会押田良樹会長(高11)がご挨拶をされ、双松会庄司会長、松江北高河原校長からはご祝辞をいただきました。

押田会長は、多数のご参加に対する感謝を述べられた後、安達宏昭さん(高43)、荒井(旧姓辰巳)悦加さん(高51)のお二人の若い会員の活躍を紹介されました。庄司会長は、母校の双松の内の1本を植え替えをせざるをえない残念な状況と、会報「双松」の郵送費へのカンパのお願いと感謝を述べられました。河原校長からは、母校に着任をした決意のご挨拶と、後輩たちが文武両道にわたって活躍をしていることのご報告をいただきました。お三方のご挨拶の要旨については別掲しましたので、ぜひご一読ください。⇒(ご挨拶要旨は別掲)

続いて、押田会長を議長に総会議事に入り、松本耕司事務局長(高16)から、議事(1)「本年度の活動報告」(別掲)、(2)「会計報告」(別掲)、ならびに梅木隆志監事(高16)から「監査報告」もなされ、満場一致で承認されました。

さらに、議事(3)「会則改訂」(別掲)は、松本事務局長から、改訂の趣旨、具体的な内容の説明があり、先般、臨時役員会を開催して熱心な審議をした上で成案を見るに至ったことの報告もなされ、拍手のうちに承認をされました。従来は、母校卒業生の中の近畿地区在住者からあらためて「近畿双松会への入会」をお願いしていましたが、今後は一転して、母校卒業生で近畿地区在住者は本来すべての方々协会会员であるとして近畿双松会を運営していくことになります。入会や退会の概念がなくなり、「会費支払い」も「運営費協力」へと移行することになり、卒業生の皆様はいつからでも、自分のご都合のいい時から総会や懇親会に参加できるというメリットも期待されます。少子化や松江市内普通高校三校鼎立の中で、母校の卒業生が減少していく流れの中で、この会則改訂が近畿双松会の将来にわたる活性化に大きく貢献するものと考えていますが、重要な内容ですので、別掲でも詳細を報告します。⇒(会則改訂の詳細は別掲)

最後に、議事(4)「役員改選」の報告があり、異議なく承認されました。

以上をもって、総会は無事に終了しました。会の基本である「会則」を改訂するという非常に重要な意味を持ったこの総会は「会則改訂総会」であったとも言えますが、この成果を是非将来に活かしてまいりたいと考えています。

5. 第二部：「講演会」

第二部は島根県立八雲立つ風土記の丘の本間恵美子所長（高19）に、「古事記～はじまりの物語」のテーマで、渡辺悟副会長（高20）の司会のもとで、約45分間の講演をいただきました。

古事記は日本人の原点を知る貴重な資料です。今年は古事記編纂1300年の記念すべき年でもあり、本間所長は古事記上つ巻（国の成り立ちから神武誕生まで）の三分の一を占める出雲神話を中心に、決して学問的に難しく読むのではなく、見方を変えて、また女性の視点から、登場する神々や出来事に「なるほど」と思える解釈を加えられ、大変興味深い講演となりました。

島根県では古事記編纂1300年を記念して「神々の国しまね」プロジェクトの様々なイベントが行われています。本間所長にはその中心ともいえる「神話博しまね」の閉会を翌日に控えた大変貴重で大事な時に来阪いただき講演をお願いしました。深く感謝する次第です。

講演の内容につきましては、当日の内容をできるだけ忠実に別掲しましたので、ご覧ください。⇒（講演内容は別掲）

6. 第三部：「懇親会」

懇親会の前に、「本年度の活動状況」がスライドショー（制作・土田和男常任幹事＝高16）で紹介されました。また、6月におこなわれた日本陸上競技選手権・女子3000m障害で優勝した会員の荒井悦加さん（高51）のレースの様子が上映（動画撮影：押田会長＝高11）され、ゴールの瞬間には大きな拍手が湧いていました。⇒（荒井さんのレースの記事は別掲、また、レースの動画はHPでご覧ください）

第三部の懇親会は、松本潤副会長（高23）の司会で、双松会の金平憲幹事長（高16）があらためて双松の松の復活に全力を尽くすことと、会報郵送費のご支援お願いについて御礼を述べられた後、高らかに「乾杯」の音頭をとっていただきました。



会場のあちこちで久しぶりに会った同期・先輩・後輩、あるいは出身小・中学校やクラブを同じくするグループなどの歓談の輪が見られました。

特に、本間所長と同期の19期の皆さんは、千葉市から小池有二さんの特別参加があるなど11名の方がご参加され、本間さんを囲んでにぎやかに旧交をあたためられていました。

また、昨年「ライブ」出演の宇田川妙さん（高27）からいただいた「山脈浮かびて」の手作り

2012(平成24)年度 「総会 懇親会」 報告 (兼)年間活動方針報告

BGM がやわらかに会場に流れ、おおいに懇親会を盛り上げていただきました。宇田川さんには紙面を借りて感謝を申し上げる次第です。

「スピーチ」は、遠来の小池有二さん(高19)と野津正明さん(高24・総務省近畿総合通信局長)にお願いし、学生ゲストの4人には自己紹介をいただき、伊藤浩先生(高28)からは学生ゲストへの激励のお言葉もいただきました。

こうして、楽しい歓談のときはまたたくうちに過ぎ、恒例の「記念撮影」が自称従軍カメラマンの土田和男常任幹事(高16)の撮影により、卒業年次ごとに7組に分かれて全員がカメラに収まりました。続いては、呼びものの「校歌の大合唱」の時間で、「赤山健児の歌」と「山脈浮かびて」を、沢山の参加者が壇上にあがって松江にも届けと言わんがばかりに熱唱しました。

最後は、旧制中学校卒のお二人の参加者の中から荒銀昌治さん(中68)に「万歳三唱」の音頭をとっていただきましたが、荒銀さんからは来年の55周年記念総会懇親会で「必ず元気でお会いしましょう」という力強いご挨拶があり、盛会のうちに来年の再会を誓っての万歳三唱となってお開きとなりました。





7. 総会・懇親会を支えていただいた皆様のご紹介

今年の総会懇親会も多くの役員・有志の皆様のご協力により、無事に開催、終了することができました。下記にお名前を紹介し、心より御礼を申し上げます。…重ねて「だんだん！」

■実行委員長 押田良樹（高11） ■総括 松本耕司（高16） ■第1部司会 三好資子（高20） ■第2部司会 渡辺悟（高20） ■第3部司会 松本潤（高23）、補佐 廣瀬弘美（高29） ■会場担当 松本潤、宍道弘志（高31） ■受付・会計 池田喜美代（高19）、三好資子、物種慶子（高20）、橘千里（高23）、木田京子（高27）、廣瀬弘美、富岡幸子（高35） ■来賓担当 押田良樹、松本耕司、渡辺悟、松本潤、橘千里、岩田一志、池田喜美代 ■会場設営・案内 三成宏二（高16）、梅木隆志（高16）、岩田一志、渡辺悟 ■映像音響・録音・照明 石橋敏幸（高29）、宍道弘志 ■カメラ 土田和男（高16）、村田 貢（高22）、達山暢（高29）、石橋敏幸

2012(平成24)年度 「総会 懇親会」 出席者

ご来賓

| | 卒業期 | 年 | 氏名 | 役職名ほか |
|---|--------|-----|--------|------------------------|
| 1 | 高11 | S35 | 庄司 肇 | 双松会会長 |
| 2 | 高16 | S40 | 金平 憲 | 双松会幹事長 |
| 3 | 高23 | S47 | 河原 一郎 | 松江北高(新)校長 |
| 4 | 高28 | S52 | 伊藤 浩 | 松江北高教諭・双松会校内幹事長 |
| 5 | 高14 | S38 | 泉 宏佳 | 東京双松会代表(雑賀・松江四・ジャズバンド) |
| 6 | 講師・高19 | S43 | 本間 恵美子 | 島根県立八雲立つ風土記の丘所長 |
| 7 | | | 売豆 紀 修 | 島根県大阪事務所長(付属中・松江南高) |
| 8 | | | 竹谷 奨 | 近畿松江会事務局長(八束中・松江高専) |

会員

| | 卒業期 | 年 | 氏名 | 旧姓 | 出身(小) | 出身(中) | クラブ |
|----|-----|-----|--------|----|--------|----------|------------------|
| 9 | 中63 | S18 | 肥塚 隆正 | | 千駄谷第一 | 旧松中 | |
| 10 | 中68 | S23 | 荒銀 昌治 | | 広瀬町 | 旧松中 | |
| 11 | 高1 | S25 | 伊藤 雅義 | | 来待 | 旧松中 | 生物 |
| 12 | 高1 | S25 | 菊田 運三郎 | | 雑賀・乃木 | 旧松中 | 映画研究会 |
| 13 | 高1 | S25 | 竹内 一郎 | | | | |
| 14 | 高1 | S25 | 林原 信光 | | | | |
| 15 | 高2 | S26 | 金坂 喜夫 | | 大阪 | 旧松中 | |
| 16 | 高2 | S26 | 竹森 英二 | 國田 | 北堀 | 旧松中 | 野球 |
| 17 | 高2 | S26 | 千葉 新一 | | 内中原 | 旧松中 | 新聞・考古学 |
| 18 | 高5 | S29 | 青木 謙整 | | 大原郡佐世 | 大原郡佐世 | |
| 19 | 高5 | S29 | 春日 敏邦 | | 朝日 | 松江三 | 美術 |
| 20 | 高5 | S29 | 寺本 尚由 | | 朝日 | 松江三 | 陸上部 |
| 21 | 高5 | S29 | 山根 徹 | | 付属 | 付属 | |
| 22 | 高6 | S30 | 荻野 克彦 | | 富山(大田) | 富山(大田) | 化学 |
| 23 | 高6 | S30 | 田村 稔久 | | 北堀 | 松江一 | |
| 24 | 高6 | S30 | 原 卓司 | | 朝日 | 松江三 | |
| 25 | 高7 | S31 | 廣政 俣彦 | | 雑賀 | 松江三 | |
| 26 | 高8 | S32 | 山崎 杲 | | 久利(大田) | 松江二 | |
| 27 | 高9 | S33 | 澄川 光成 | 伊藤 | 雑賀 | 松江四 | |
| 28 | 高9 | S33 | 真野 透 | | 付属 | 付属 | |
| 29 | 高9 | S33 | 木村 八重子 | 木山 | 母衣 | 付属 | ソフトボール |
| 30 | 高9 | S33 | 佐藤 早智子 | 松村 | 雑賀 | 付属 | 手芸 |
| 31 | 高9 | S33 | 清水 良子 | 松尾 | 北堀 | 松江一 | 化学分析 |
| 32 | 高10 | S34 | 面白 紘 | | 本庄 | 本庄 | サッカー |
| 33 | 高10 | S34 | 佐藤 菁治 | | 大野 | 大野 | |
| 34 | 高10 | S34 | 佐和田 丸 | | 頓原(飯石) | 頓原(飯石) | |
| 35 | 高11 | S35 | 押田 良樹 | | 雑賀 | 松江四 | 軟式テニス・図書 |
| 36 | 高11 | S35 | 小久江 良雄 | | | 松江四 | |
| 37 | 高11 | S35 | 田中 一男 | | 白潟 | 松江三 | 宍道湖一周、2・3年連続学年1位 |
| 38 | 高11 | S35 | 畑田 稔 | | 付属 | 付属 | 卓球 |
| 39 | 高11 | S35 | 村尾 俊治 | | 雑賀 | 松江四 | 絵画 |
| 40 | 高11 | S35 | 新谷 公子 | 石飛 | 入間(掛合) | 掛合 | 音楽 |
| 41 | 高12 | S36 | 斎尾 秀城 | | 雑賀 | 松江四 | 生物・吹奏楽・弓道 |
| 42 | 高12 | S36 | 萩野 貫悟 | 筒井 | 揖屋 | 東出雲中(揖屋) | |
| 43 | 高13 | S37 | 桑原 洋史 | | 熊野 | 付属 | |
| 44 | 高13 | S37 | 藤田 トク子 | 小笹 | 白潟 | 松江三 | ソフト |

会員

| | 卒業期 | 年 | | 氏名 | 旧姓 | 出身(小) | 出身(中) | クラブ |
|----|----------|-----|---|--------|----|------------------|-----------|-------------|
| 45 | 高13 | S37 | | 山下 俱子 | 今井 | 乃木 | 松江三 | 美術 |
| 46 | 高14 | S38 | | 加藤 巡一 | | 付属 | 松江一 | 化学分析 |
| 47 | 高14 | S38 | | 木村 修芳 | | 修立(鳥取) | 付属 | |
| 48 | 高14 | S38 | 初 | 小泉 勝是 | | 北堀 | 松江一 | 山口高校へ転校 |
| 49 | 高14 | S38 | | 木幡 晃正 | | 穴道 | 付属 | 陸上部 |
| 50 | 高14 | S38 | | 富永 寿郎 | | 母衣 | 松江二 | 軟式テニス |
| 51 | 高15 | S39 | | 安達 和彦 | | 佐太 | 付属 | バドミントン |
| 52 | 高15 | S39 | | 金坂 喜好 | | 大野 | 大野 | |
| 53 | 高15 | S39 | | 佐藤 修介 | | 内中原 | 松江一 | 新聞 |
| 54 | 南高1 | S39 | | 平本 良平 | | | | |
| 55 | 高16 | S40 | | 井上 伸久 | | 川津 | 松江二 | |
| 56 | 高16 | S40 | | 梅木 隆志 | | 森山(下宇部尾分) | 美保関北 | 陸上部 |
| 57 | 高16 | S40 | | 土田 和男 | | 内中原 | 松江一 | バドミントン |
| 58 | 高16 | S40 | | 坪倉 司郎 | | 本庄 | 本庄 | |
| 59 | 高16 | S40 | | 松本 耕司 | | 本庄 | 本庄 | 陸上部 |
| 60 | 高16 | S40 | | 三成 宏二 | | 付属 | 付属 | |
| 61 | 高16 | S40 | | 森藤 哲章 | | 広瀬 | 広瀬 | |
| 62 | 高16 | S40 | | 山田 敬子 | 矢壁 | 松原(浜田)・川本・益田 | 益田東・浜田二 | 浜田高校から転校・美術 |
| 63 | 高19 | S43 | | 岩田 一志 | | 荒島(安来) | 安来三 | バレー・文芸 |
| 64 | 高19 | S43 | | 江角 健一 | | 本庄 | 本庄 | 陸上部 |
| 65 | 高19(千葉市) | S43 | 初 | 小池 有二 | | 揖屋 | 付属 | |
| 66 | 高19 | S43 | | 新見 泰朗 | | 付属 | 付属 | |
| 67 | 高19 | S43 | | 万波 迪義 | | 付属 | 付属 | 陸上部 |
| 68 | 高19 | S43 | | 元 栄 徹 | 成相 | 飯梨(安来) | 安来三 | |
| 69 | 高19 | S43 | | 池田 喜美代 | 川原 | 北堀 | 松江一 | 考古学 |
| 70 | 高19 | S43 | 初 | 江守 久美子 | 斉藤 | 朝日 | 松江一 | バドミントン部 |
| 71 | 高19 | S43 | 初 | 大久保 章子 | 佐藤 | 古江 | 古江 | 書道 |
| 72 | 高19 | S43 | 初 | 田中 芳子 | 森野 | 北堀 | 松江一 | |
| 73 | 高19 | S43 | 初 | 仁井 尋子 | 宮崎 | | 付属 | |
| 74 | 高20 | S44 | | 渡 辺 悟 | | 付属 | 付属 | ボート部 |
| 75 | 高20 | S44 | | 三好 資子 | 恩田 | 北堀 | 松江一 | (帰宅部) |
| 76 | 高20 | S44 | | 物種 慶子 | 北脇 | 本庄 | 付属 | |
| 77 | 高20 | S44 | | 山崎 麻里子 | 木村 | 益田・松原小(浜田) | 浜田二・松江一 | 双曲(お琴) |
| 78 | 高21 | S45 | | 花田 幸久 | | 母衣 | 付属 | |
| 79 | 高22 | S46 | | 村 田 貢 | | 西郷 | 西郷 | バンド活動 早弁クラブ |
| 80 | 高22 | S46 | 初 | 大浦 綾子 | 大浦 | 北堀 | 松江一 | 機械体操 |
| 81 | 高22 | S46 | | 鶴羽 孝子 | 石橋 | 持田 | 松江二 | |
| 82 | 高23 | S47 | | 朝比奈 博則 | | 吉田(安来) | 安来二 | 野球 |
| 83 | 高23 | S47 | | 松 本 潤 | | 安来 | 安来一 | |
| 84 | 高23 | S47 | | 森脇 泰雄 | | | | |
| 85 | 高23 | S47 | 初 | 小松 久美子 | 樋原 | 秋鹿 | 秋鹿 | |
| 86 | 高23 | S47 | | 橘 千里 | 小倉 | 広瀬 | 広瀬 | |
| 87 | 高23 | S47 | | 山口 紀子 | 宮崎 | 内中原・松原(浜田)・温泉津・萩 | 木次・川本・松江一 | 生物 |
| 88 | 高24 | S48 | | 岩間 令道 | | | | |
| 89 | 高24 | S48 | 初 | 野津 正明 | | 川津 | 松江二 | |
| 90 | 高27 | S51 | | 木田 京子 | 能海 | 本庄 | 本庄 | (帰宅部) |
| 91 | 高27 | S51 | 初 | 菅尾 恵子 | 竹下 | | | |
| 92 | 高27 | S51 | | 竹内 博子 | 門脇 | | | |

2012(平成24)年度 「総会 懇親会」 出席者

会員

| | 卒業期 | 年 | | 氏名 | 旧姓 | 出身(小) | 出身(中) | クラブ |
|-----|-----|-----|---|--------|----|----------|-------|---------|
| 93 | 高27 | S51 | | 松田 稚子 | 永島 | | | |
| 94 | 高29 | S53 | | 石橋 敏幸 | | 加賀 | 島根 | |
| 95 | 高29 | S53 | | 太田 春樹 | | 美保関 | 美保関南 | サッカー |
| 96 | 高29 | S53 | | 達山 暢 | | 北堀(城北) | 付属 | 写真・映画研究 |
| 97 | 高29 | S53 | | 佐々木 聖子 | 須藤 | 大宅(京都) | 松江二 | 剣道 |
| 98 | 高29 | S53 | | 野津 さとみ | | 安来 | 安来一 | |
| 99 | 高29 | S53 | | 浜野 則子 | 田中 | 城北(法吉) | 松江二 | JRC |
| 100 | 高29 | S53 | | 廣瀬 弘美 | 藤原 | 北堀(城北) | 松江一 | 演劇 |
| 101 | 高29 | S53 | | 蓑田 久美子 | 野津 | 内中原 | 松江二 | 剣道 |
| 102 | 高31 | S55 | | 穴道 弘志 | | 内中原 | 松江一 | 弓道 |
| 103 | 高34 | S58 | 初 | 竹江 章 | | 城北 | 松江一 | バレーボール |
| 104 | 高34 | S58 | 初 | 田中 修一 | 岩崎 | 安来 | 安来一 | |
| 105 | 高34 | S58 | | 山岡 雅仁 | | 西郷 | 西郷 | バレーボール |
| 106 | 高34 | S58 | 初 | 山岡 祐子 | 山岡 | 福井(隠岐海土) | 平田 | 合唱 |
| 107 | 高35 | S59 | | 池田 康郎 | | 付属 | 付属 | サッカー |
| 108 | 高35 | S59 | | 富岡 幸子 | 三和 | 七類 | 美保関北 | |
| 109 | 高46 | H7 | 初 | 宮廻 光則 | | 城北 | 松江一 | ボート部 |
| 110 | 高55 | H16 | 初 | 井原 和彦 | | 付属 | 付属 | 硬式テニス部 |

学生ゲスト

| | 卒業期 | 年 | | 氏名 | 旧姓 | 出身(小) | 出身(中) | クラブ |
|-----|-----|-----|---|--------|----|-------|-------|--------|
| 111 | 高59 | H20 | | 築山 健一 | | 付属 | 付属 | バレーボール |
| 112 | 高60 | H21 | 初 | 安西 美樹 | | | 付属 | 硬式テニス部 |
| 113 | 高63 | H24 | 初 | 石賀 健太郎 | | 雑賀 | 松江三 | 卓球 |
| 114 | 高63 | H24 | 初 | 星野 佑樹 | | 竹矢 | 付属 | 囲碁将棋 |

会長挨拶



押田 良樹(高11)
近畿双松会会長

で活躍をされた母校出身の人材が紹介されていますが、紙面では紹介をされていない数多くの立派な卒業生を含め、母校が文武両道の教育方針のもと、歴史と伝統にふさわしい多数の有為の人材を輩出していることをあらためて誇りに思います。

このことに関連し、今年に入りましてからお二人の若い会員の方が大変に立派な名誉ある活躍をされましたので、お互いに喜び合いたいと思ひましてこの場を借りましてご披露をさせていただきます。

お一人は高43期(平4卒)の安達宏昭さんで、大阪大学のご出身で産学連携の大学発ベンチャー企業を立ち上げられた結晶化技術に関する技術者であり経営者でいらっしゃる訳ですが、この研究成果が認められて今年の4月に第44回市村賞というリコーの創始者市村清さんが創設した権威ある賞を受賞されました。安達さんはこれまでも多数の受賞をされており、4年前には文部科学大臣賞(科学技術部門研究者賞)も受賞されています。(この時にもっとも優れた研究者として表彰されたのがノーベル賞を受賞された京都大学の山中教授でした)

もうお一人は高51期(平12卒)の荒井(辰巳)悦加さんで、6月に長居陸上競技場でおこなわれた日本陸上競技選手権の女子3,000m障害で念願の初優勝を遂げました。松高・北高の陸上部出身者としては男子棒高跳の山田寧さん(高9期)以来の51年ぶりの日本チャンピオン誕生の快挙で、私も応援にまいりましたが興奮を禁じえませんでした。(荒井さんは5年前の世界陸上大阪大会に出場され、その体験談をその年のこの総会で講演いただいたのをご縁に、近畿の会員として入会いただき、郷里に帰られてからも会員を続けていただいています)

このように文武両道を体現する30歳代の若いお二人の会員の活躍は、大変嬉しく、我々を勇気づけてくれました。今後のなお一層の活躍を祈りたいと思います。

また、同期のことで恐縮ですが挿絵画家の藤川秀之さん(高11・東京在住)を郷里松江の方々や双松会の皆様にご紹介する活動につきましては、古事記編纂1300年に因み松江・出雲で神話絵本原画展を開催するなど同期を挙げて頑張っておりますが、皆様にはいろいろな形でご協力をいただきましたこと、高い席からで恐縮ですが厚く御礼を申し上げます。

双松会という同窓の中で、活躍をしている人、頑張っている人をご紹介するのもこういった会の活動としては大事なことではないかと思ひますので、ご紹介をさせていただいた次第です。

最後になりましたが、本日の最高齢者は昭和18年卒・旧制中学63期の肥塚先輩ですから、本年3月卒業の高63期の皆様とは実に68年の開きがあるという、他に類例のないような集まりでございますが、年代の差を超えてどうぞ時間の許す限り交流、ご歓談をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。有り難うございました。

本日は秋晴れのもと、110名を超える多数の会員の皆様にご出席いただき、54回目の総会・懇親会を開催できたことを真に嬉しく存じます。

ご来賓の皆様にはおれそがしい中、又、遠路はるばるお越しを賜りまして真に有り難うございます。厚く御礼申し上げます。

お蔭をもちまして、本年度も順調に各行事を開催し、今日を迎えることができましたが、これも三人の副会長をはじめとする役員の皆様の献身的なご協力の賜物でございまして、厚く御礼を申し上げます。

ご承知のように母校は昨年創立135周年を迎えました。明治9年(1876)の設立ですがこの時点でいわゆる各県の第一中学(旧制)として創立されていたのは全国で11校しかありませんから、国内有数の非常なる伝統校で、プロ野球の「名球会」ではありませんが、「明9会」と覚えていただければ設立年も覚えやすいのではないかと思います。

9月18日号の週間エコノミストの「名門高校の校風と人脈」欄で母校が取り上げられました。若槻・竹下の両総理大臣をはじめとする各分野

来賓ご挨拶



庄 司 肇(高11)
双 松 会 会 長

今日は110名を超える多数の会員の皆様がお集まりになり、このように盛大に総会・懇親会が開催されますことは、真にご同慶の至りに存じます。今後、益々盛んに近畿双松会の活動が続きますことをお祈り申し上げます。

また、昨年の創立135周年式典には、近畿からも押田会長をはじめ沢山の皆様にご参加いただき、お蔭さまで盛大に開催することができました。厚く御礼申し上げます。

さて、今日は旧制松江中学卒の先輩の皆様もお見えですが、一つ残念なことをご報告しなければなりません。双松の「松」が植え替えをして二代目になっていることはご承知のとおりですが、昨年、一昨年と二年続いた猛暑や豪雪のために一本が枯れてしまいました。校地内に同じ係累の予備の松もありますので、これからどうするかを本格的に検討していかなければならないという状況でございますので、まずはご報告まで申し上げます。

もう一点、「双松会報」についてご報告とお願いをさせていただきます。この「会報」は全国でも珍しいことではないかと思いますが、年に一回、全卒業生にお届けしています。この費用は、毎年の新卒業生の入会費用でまかなっておりますが、毎年の卒業生が300人ほど大変少なくなって入会費も減っていますので、全国の全卒業生に対する郵送費の工面に苦慮しているというのが実態です。

5年前でしたか、全卒業生に「会報」発送費の支援を要請しましたところ800万円の資金応援をいただき、それで今まで運転をまいりました。しかしながら、いよいよそれも底をついてまいりました。そこで、この前の「会報」お届けの際に、ご支援依頼の「振り込み用紙」を同封させていただいた次第でございます。一回150万円ほどの費用が発生しますので、前回同様のご支援をいただければ5年は大丈夫ではないかと思っておりますが、どうぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、「会報」については、今年から住所のわかっている海外在住の会員の皆様にもお届けするようになりました。「母校の近況」を教えて欲しいというご要望にお応えしたのですが、何人かの皆さんからメールでのご返事があり、大変喜んでいただいております。嬉しく思っております。「会報」もそういう時代に入っておりますことを申し添えさせていただきます。

最後になりますが、双松会の運営、会報の内容等については、会員の皆様のいろいろなお声をお聞かせいただけて活かしてまいりたいと考えておりますので、今後ともご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございました。

来賓ご挨拶



河原 一郎 (高23)
松江北高校校長

でなく、試合態度の素晴らしさに全国の指導者の先生方から称賛のお声をいただいて本当に嬉しく思いました。

「陸上部」では、本校生徒がバルセロナでおこなわれた世界ジュニア陸上選手権の男子400mリレーの日本チームのアンカーをつとめ、アメリカやジャマイカに続いて3位に入る活躍をしてくれました。全校生徒の前でメダルを渡すのも私の仕事ですが、私も生まれて初めて本物の銅メダルを見ていささか興奮をしたという次第でした。

又、「陸上部」では別の生徒が先日おこなわれました日本ジュニア陸上選手権の110mハードルで優勝いたしました。インターハイでは100分の3秒、国体では100分の2秒で優勝を逃していますが、今回の優勝は1000分の1～2秒差での優勝ということで、3度目の正直で雪辱を果たしたことになります。

「文化部関係」では、8月に富山でおこなわれた全国総文祭の百人一首カルタの読み手部門で2年生の生徒が全国1位になりました。このように部活の方も先輩方に負けず生徒たちは頑張っております。

ただ、残念ながら県の高校総体では今年度は優勝ができず、来年は是非リベンジを果たしたいと考えているところです。

また、先ほどの押田会長のお話に出ました荒井悦加さんには、全国インターハイの壮行式で選手たちに檄を飛ばしていただきまして、生徒たちは荒井さんの話に感激して勇んで出発をしていったというようなこともございました。

「学習面」では島根県全体が苦戦をしているというのが実情ですが、その中で本校は例年通りの成果をあげました。詳しくはお手元の資料でご覧いただきたいと思います。

最後になりましたが、「通信制課程」は昭和30年に松江工業から本校に移管をされましたが、県立宍道高校の開校とともに新入生はそちらに入学をしております、本年度末をもちまして通信制課程を閉じることになりましたことをご報告申し上げます。

今後とも、私、母校のために精一杯頑張っている所存でございますので、皆様にはご支援、ご高導のほどをどうぞよろしくお願い申し上げます。本日はおめでとうございました。

この4月に母校松江北高の校長でまいりました河原（ゴウバラ）と申します。

近畿の松本潤副会長とは同期の23期で、高校時代はバスケット部におりました。どうぞよろしく願いいたします。

今日は、現在の北高の状況をご報告してご挨拶に代えさせていただきます。

本校は「文武両道」ということで、勉強にクラブに頑張っているのは皆様ご承知のとおりですが、詳しくはお手元に資料をお届けしていますので、それをご覧いただきたいと思います。私からはその中から主なものいくつか紹介させていただきます。

まず、「女子弓道部」がこの3月の全国選抜大会で優勝するという快挙を成し遂げました。団体での全国優勝は昭和58年の合唱部以来の出来事でしたが、さらに、夏のインターハイでも4位という素晴らしい成績を挙げてくれました。私も長野まで応援に出かけましたが、競技成績だけ

2012(平成24)年度「総会 懇親会」記念写真



中63・68期、高1・2期の皆さん



高5・6・7・10・11期の皆さん



高8・9・16期の皆さん



高12・13・14・15・24期の皆さん

2012(平成24)年度「総会 懇親会」記念写真



高19・20・21期の皆さん



高22・23・27・34期の皆さん



高29・31・35・46・55期、学生ゲストの皆さん

テーブル別スナップ



中63・68期、高1・2期の皆さん



中63期、高1・2期の皆さん



高5・6・7期の皆さん



高8・9期の皆さん



高9期女性陣の皆さん



高9・12・15期の皆さん



高10・11期の皆さん



高11・13期の皆さん（南高卒の方も飛び入り）



高14・24期の皆さん



高16期の皆さん



高19期の皆さん（12名は最多出場）



高19・20・21期の皆さん

テーブル別スナップ



高19・22・23期の皆さん



高23期の皆さん



高27・34期の皆さん



高29期の皆さん、お一人は東京からの飛び入り



高29・31期の皆さん



高35・46・55期、学生ゲスト（高59・60・63期）の皆さん

スナップ



スナップ





総会議事(1) 2012(平成24)年度 活動事業報告

◆2011(平成23)年

| | |
|-----------|---|
| 10月 1日(土) | 平成24年会計年度開始 |
| 2日(日) | 平成23年度総会案内の発送 |
| 23日(日) | 第5回歴史ウォーキング(参加18名、於:湖北・小谷城址、長浜) |
| 11月 5日(土) | 第1回健脚ウォーキング(参加7名、於:北摂・箕面方面) |
| 15日(火) | 平成23年度会計決算書監査 |
| 19日(土) | 事務局会議開催(平成23年度総会・懇親会第1回準備会合) |
| 24日(木) | 松江北高校創立135周年記念総会に押田会長・松本副会長が参加 |
| 27日(日) | 事務局会議開催(平成23年度総会・懇親会第2回準備会合) |
| | 平成23年度近畿双松会総会・懇親会(於:中央電気倶楽部) (参加者は学生ゲストを含め99名) (公演)安来市在住の宇田川妙さん(高27)のライブ |

◆2012(平成24)年

| | |
|-----------|--|
| 1月 7日(土) | 事務局会議開催(新年会・平成24年度活動について意見交換) |
| 19日(木) | 平成24年度新年役員懇親会(於:中央電気倶楽部) (新年度の基本活動方針の検討・出席23名) |
| 3月 2日(金) | 事務局会議開催(平成24年度事業計画 最終確認) |
| 18日(日) | 第5回落語鑑賞会(高槻亀屋寄席・参加12名) |
| 末日 | 平成23年度「会報」の発行 |
| 4月 7日(土) | 平成24年度事業計画ならびに平成23年度「会報」の発送 |
| 5月30日(水) | 第32回ゴルフ懇親会(参加23名、於:武庫ノ台CC) |
| 6月10日(日) | 荒井悦加さん(高51)の日本陸上競技選手権参加を13名が応援 (荒井さんは女子3,000m障害日本チャンピオンに輝く快挙) |
| 24日(日) | 有志による「里山歩くぞハイキング」柳生の巻下見(追加2回下見) |
| 7月16日(月) | 有志による「清盛in神戸」歴史ウォーキング 下見 |
| 22日(日) | 第7回文楽鑑賞会(参加17名、於:国立文楽劇場) |
| 8月23日(木) | 事務局会議開催(会則改訂案検討) |
| 9月 5日(水) | 平成24年度総会案内の発送 |
| 30日(日) | 第6回歴史ウォーキング「清盛in神戸」台風のため中止(参加予定24名) |
| 30日(日) | 平成24年会計年度終了 |
| 10月 1日(月) | 平成25年会計年度開始 |
| 4日(木) | 臨時役員会開催(会則改訂案審議) (委任状含む出席37名、於:中央電気倶楽部) |
| 21日(日) | 第2回里山歩くぞハイキング「柳生の巻」(参加13名) |
| 11月 5日(月) | 平成24年度会計決算書監査 |
| 10日(土) | 事務局会議開催(平成24年度総会・懇親会準備会合) |
| | 平成24年度近畿双松会総会・懇親会(於:中央電気倶楽部) (参加者は学生ゲストを含め114名) (会則を改訂) (講演)本間恵美子さん(高19)島根県立八雲立つ風土記の丘所長 (再挑戦)第6回歴史ウォーキング「清盛in神戸」(参加13名) |
| 12月 2日(日) | 年度会報の編集開始 |

◆2013(平成25)年

| | |
|------------|---|
| 1月11日(金) | 事務局会議開催(新年度役員懇親会準備) |
| 24日(木) | 平成25年度新年役員懇親会 (新年度の基本活動方針、特に55周年行事の骨格審議) |
| 3月20日(水・祝) | 事務局会議開催(平成25年度事業計画 最終確認) |
| 末日 | 平成24年度「会報」の発行 暫定会計年度終了 |
| 4月 1日(月) | 新会則の施行・新会計年度開始 |
| 未定 | 平成25年度事業計画ならびに平成24年度「会報」の発送 |
| 21日(日) | 第6回落語鑑賞会(高槻・亀屋寄席) |

総会議事(2) 2012(平成24)年度 会計報告・監査報告

(平成23年10月1日～平成24年9月30日)

(単位：円)

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|-------------------|-----------|----------------|-----------|
| ◎ 前期繰越金 | 2,394,453 | ◎ 支出計 | 2,209,065 |
| ◎ 収入計 | 2,081,520 | ・ 通信費 | 440,210 |
| ・ 平成23年度(後半)年会費収入 | 161,000 | ・ 印刷費 | 237,750 |
| ・ 同、寄付・広告等賛助金収入 | 36,000 | ・ 事務費 | 130,486 |
| ・ 平成24年度(前半)年会費収入 | 742,000 | ・ 郵便、銀行手数料等 | 37,320 |
| ・ 同、寄付・広告等賛助金収入 | 211,000 | ・ 平成23年度総会費 | 751,279 |
| ・ 平成23年度総会会費収入 | 680,000 | ・ 同、会報費 | 303,250 |
| ・ 平成24年度総会会費事前収入 | 7,000 | ・ 平成24年度新年役員会費 | 97,739 |
| ・ 平成24年度新年役員会会費収入 | 69,000 | ・ 平成24年度諸行事支払い | 211,031 |
| ・ 平成24年度諸行事参加費収入 | 175,500 | ◎ 次期繰越金 | 2,266,908 |
| ・ 雑収入 | 20 | ・ 内訳 | |
| | | (郵便貯金振替残) | 2,102,635 |
| | | (郵便貯金) | 10,617 |
| | | (現金) | 153,656 |
| ◎ 総合計 | 4,475,973 | ◎ 総合計 | 4,475,973 |

上記のとおり報告いたします。

副会長(事務局長) 松本 耕司 ㊟

監査の結果、正確に処理・記帳されていることを認めます。

平成24年11月5日

監事 梅木 隆志 ㊟

監事 物種 慶子 ㊟

総会議事（3） 会則の改訂

当会の将来にわたる継続・発展のため、会則を改訂することになりました。

昨年から事務局において検討を開始し、2012年1月の新年役員会で大筋のご了解をいただき、以降、更に詳細の検討を重ね、10月の臨時役員会で逐条審議をおこなった上で決議を得た次第です。

そして、11月10日の総会に議事として報告をされ、満場一致で承認をいただきました。

2013（平成25）年4月1日より「新会則」を適用しますので、ここにその詳細を報告します。

現行の会則は、卒業生の方々にあらためて「近畿双松会への入会」をお願いし、「会費」のお支払いをお願いしていましたが、今後は、卒業生で近畿地域在住のすべての方々が会員であるとして運営をしていくことになります。

改訂の趣旨・骨子は下記のとおりですが、少子化や松江市内普通高校三校鼎立の中で、母校の卒業生が減少している流れの中で、この会則改訂により、総会・懇親会へのご参加が増えるなど、近畿双松会の将来にわたる活性化の基盤となることを期待しています。

卒業生の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

【改訂の趣旨・骨子】

入会、会費、退会の手続きなどのクローズな概念を払拭し、新たな発想で将来への継続、発展をめざす。

骨子①：すべての卒業生は双松会員であり、本部会則に準じてあらためて近畿での入会手続きを必要としないことを明示。

- ・いつからでも、何歳からでも自然に参加でき、退会の概念も払拭。

骨子②：「会費」については名称を「運営費」に切り替え、徴収ではなく協力をいただく形にし、有志の皆様の協力を仰ぐ。

- ・「口数」の仕組みも導入し、協力をいただきやすくする。

骨子③：会則内容を現在の運営実態に合わせ、現行会則の不備な項目を全面的に整備。

- ・将来世代へ継続しやすい、「読めばわかる」形をめざす。

新しい会則

(下線は主な改訂点)

【名称】

第1条 本会は近畿双松会と称する。

【会員】

第2条 本会は次の会員により組織する。

1. 近畿地区に在住する旧制島根県立松江中学校、新制島根県立松江高等学校及び松江北高等学校の卒業生及び之に準ずる者。
2. 近畿地区在住者以外の双松会員で入会を希望する者。
3. 教職員であった者で近畿地区に在住する者。

【目的】

第3条 会員相互の交誼、親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。

【事業】

第4条 本会は前条の目的を達成するため次のことを行う。

1. 年次総会と懇親会の開催。
2. 年次会報の発行、ホームページの運営などの会員への情報提供。
3. 周年記念事業、各種親睦行事、講演会等の開催。
4. 会員名簿の管理。
5. その他本会の目的達成に必要な事業。

【役員】

第5条 本会に次の役員を置き、任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

1. 会長 1名
2. 常任顧問及び顧問 若干名
3. 副会長 若干名
4. 事務局長 1名
5. 常任幹事 若干名
6. 幹事 各期1名以上
7. 監事 2名

【役員を選任】

第6条 役員は次の通り選出する。

1. 会長は、正副会長及び常任顧問、顧問の合議により会員の中から推薦し、役員会及び総会に報告し承認を受ける。
2. 常任顧問、顧問は会長が推薦し、役員会及び総会に報告し承認を受ける。
3. 副会長、監事は会長が会員の中から委嘱し、総会の承認を受ける。
4. 事務局長は会長が副会長の中から委嘱する。
5. 常任幹事は幹事の中から会長が委嘱する。
6. 幹事は会員の中から会長が委嘱する。

【役員の職務】

第7条 役員の職務は次の通りとする。

1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 常任顧問、顧問は会長ならびに役員会の諮問に応じ、会務について意見を具申する。
3. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはこれを代行する。
4. 事務局長は会長の指示をうけ、会務の運営・執行にあたる。
5. 常任幹事は会務の運営・執行を分担する。
6. 幹事は各期を代表し、会員との連絡にあたる。
7. 監事は本会の会計を監査し、総会にその結果を報告する。

【役員会】

第8条 役員会は、第5条の役員をもって構成し、次の通り開催する。

1. 会長が、毎年1月を基本として召集する。
2. 役員会は、役員を選出、事業報告と決算（見込み）、事業計画と予算、会則の改訂、その他の会の運営に関わる重要事項を審議する。

新しい会則

3. 会長は、必要あるときは臨時に役員会を召集し、または書面での持ち回りで審議をすることができる。

【総会】

第9条 総会は次の通り開催する。

1. 通常総会は原則として毎年11月に開催する。
2. 総会には役員を選出、予算、決算、会則の改訂、その他の会務を報告し承認を受ける。
3. 総会と同時に懇親会、講演会等を開催する。
4. 会長は、必要あるときは役員会の承認を得て臨時総会を召集することができる。

【事務局】

第10条 本会に、第4条に定める事業を推進するため、事務局を置く。

1. 事務局は第7条の常任幹事を核とする役員有志をもって構成し、事務局長が統括する。
2. 事務局長は、適時「事務局会議」を開催し、会務が円滑に運営・執行されるよう努める。

【会計】

第11条 本会の会計に関する諸事項は次の通りとする。

1. 本会は、第4条に定める事業を推進するため、運営費、寄附金、広告その他の協力を会員に仰ぐ。
2. 運営費等の詳細については、つど役員会に報告し、承認を受ける。
3. 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

【会則の改訂】

第12条 この会則の改訂は、第8条の2、第9条の2で定める通り、役員会の審議を経て、総会の承認を受けなければならない。

【附則】

1. 本会則は平成24年11月10日に改訂し平成25年4月1日より適用する。
2. 事務局は会則改訂に関連して、移行措置が必要となった場合は適切な対策を講じ、重要な事項は適宜役員会に報告するものとする。
3. 改訂記録(判明分のみ)
昭和58年11月24日改訂・昭和61年11月14日改訂・昭和63年11月18日改訂・平成4年11月28日改訂・平成9年11月9日改訂・平成12年11月20日改訂・平成24年11月10日改訂(平成25年4月1日適用)

以上

【運営覚書】

1. 設立年月日：設立(戦後の再開)総会のおこなわれた昭和33年10月25日とする。
2. 所在地：事務局は当分の間、大阪市西区江戸堀1-21-35(株)トーヨーコーポレーション内に置く。
3. 第2条1の「近畿地区」：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の二府四県を称す。
4. 同、「準ずる者」：在籍はしたが転校などにより卒業はしなかった者などを称す。
5. 同条関連：卒業後6年以内の者を「学生世代会員」として遇する。
6. 第4条3の「周年記念事業」：5年単位を基本として行うことを目標とする。
7. 同条4の「会員名簿の管理」：
 - ① 双松会名簿「双松」を基本とし、近畿地区在住会員の管理に不断に努める。
 - ② 居所不明、あるいは会員自身(ご家族含む)からのご連絡があった場合は各案内を差し止める。
8. 第8条関連：総会・懇親会には「学生世代会員」を招待するよう努める。
9. 第11条2の「運営費」：
 - ① 主として日常の会員との諸連絡等の事務費、および年次会報発行費に充当する。
 - ② 運営費は、当分の間、一口1,000円とし、年三口を標準に会員に協力を仰ぐ。
 - ③ 運営費、ならびに寄付・広告等でご協力をいただいた会員には年次会報を贈呈し、お名前を各資料に掲載して感謝の意を表する。
 - ④ 「学生世代会員」には、運営費、及び寄附を求めない。
10. その他：懇親会、各種行事等の諸経費は、つどの参加者負担を原則として運営する。

総会議事(4) 2012(平成24)年度 役員一覽

| 役 | 期 | 氏名 | 役 | 期 | 氏名 |
|---------------------------|------|--------|------|------|--------|
| 常任顧問 | 中 61 | 児玉 治利 | 常任幹事 | 高 15 | 金坂 喜好 |
| 常任顧問 | 高 7 | 山本 雅昭 | 幹事 | 高 15 | 安達 和彦 |
| 会長 | 高 11 | 押田 良樹 | 常任幹事 | 高 16 | 土田 和男 |
| 副会長 <small>(事務局長)</small> | 高 16 | 松本 耕司 | 幹事 | 高 16 | 三成 宏二 |
| 副会長 | 高 20 | 渡辺 悟 | 幹事 | 高 17 | 山根 律郎 |
| 副会長 | 高 23 | 松本 潤 | 常任幹事 | 高 19 | 岩田 一志 |
| 監事 | 高 16 | 梅木 隆志 | 幹事 | 高 19 | 池田 喜美代 |
| 監事 | 高 20 | 物種 慶子 | 常任幹事 | 高 20 | 三好 資子 |
| 常任幹事 | 中 68 | 荒銀 昌治 | 常任幹事 | 高 22 | 村田 貢 |
| 幹事 | 中 68 | 青戸 元也 | 幹事 | 高 23 | 橘 千里 |
| 幹事 | 高 1 | 荻田 運三郎 | 幹事 | 高 24 | 岩間 令道 |
| 幹事 | 高 2 | 竹森 英二 | 幹事 | 高 26 | 福間 則博 |
| 幹事 | 高 3 | 緒形 公士 | 幹事 | 高 27 | 木田 京子 |
| 幹事 | 高 4 | 須藤 信幸 | 幹事 | 高 29 | 石橋 敏幸 |
| 常任幹事 | 高 5 | 山田 稔 | 常任幹事 | 高 29 | 廣瀬 弘美 |
| 幹事 | 高 6 | 田村 稔久 | 幹事 | 高 30 | 千葉 潮 |
| 常任幹事 | 高 7 | 廣政 俣彦 | 常任幹事 | 高 31 | 穴道 弘志 |
| 幹事 | 高 8 | 山崎 杲 | 幹事 | 高 31 | 小林 満 |
| 幹事 | 高 9 | 清水 良子 | 幹事 | 高 31 | 西村 英明 |
| 常任幹事 | 高 10 | 佐和田 丸 | 幹事 | 高 32 | 藤本 斉子 |
| 幹事 | 高 11 | 田中 一男 | 幹事 | 高 32 | 浅沼 吉正 |
| 幹事 | 高 12 | 萩野 貫悟 | 幹事 | 高 32 | 木村 滋樹 |
| 常任幹事 | 高 14 | 加藤 巡一 | 幹事 | 高 33 | 柳井 利明 |
| | | | 幹事 | 高 34 | 細田 昌幸 |
| | | | 常任幹事 | 高 35 | 富岡 幸子 |
| | | | 幹事 | 高 36 | 森口 次郎 |
| | | | 幹事 | 高 43 | 安達 宏昭 |

追 悼

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(昨年総会以降、事務局にご連絡のあったすべてを掲載しました)

物故会員

| (期) | (お名前) | (ご逝去年月日) |
|------|----------|-------------|
| 中53期 | 築 勤 様 | 平成22年8月6日 |
| 中62期 | 深田 俊雄 様 | 平成23年12月3日 |
| 中63期 | 園山 徳道 様 | 平成24年8月 |
| 高2期 | 持田 好晴 様 | 平成24年2月16日 |
| 高5期 | 島田 寿夫 様 | 平成24年1月8日 |
| 高5期 | 森 悌二 様 | 平成23年12月21日 |
| 高8期 | 佐次 育郎 様 | 不明 |
| 高9期 | 大島千恵子 様 | 平成24年1月 |
| 高11期 | 友廣 義彦 様 | 平成23年9月23日 |
| 高11期 | 津田 澄江 様 | 平成15年7月 |
| 高14期 | 原 昭一 様 | 平成22年2月16日 |
| 高14期 | 小原 保子 様 | 不明 |
| 高20期 | 安達 俊一郎 様 | 平成18年2月9日 |

平成24年度 寄付・広告等、会費外の賛助者ご芳名

(敬称略/平成25年2月現在)

| | | | |
|-------|--------|-------|-------|
| 特別会員 | 八木 幸治 | 高校10期 | 佐藤 菁治 |
| 中学61期 | 菊田 光男 | | 佐和田 丸 |
| | 児玉 治利 | 高校11期 | 押田 良樹 |
| 中学63期 | 肥塚 隆正 | 高校12期 | 萩野 貫悟 |
| 中学68期 | 青戸 元也 | | 石川 洋美 |
| | 荒銀 昌治 | 高校13期 | 永江 幹雄 |
| | 吉岡 孝夫 | 高校14期 | 木幡 晃正 |
| 高校1期 | 伊藤 雅義 | | 富永 寿郎 |
| | 荻田 運三郎 | | 三好 洋二 |
| | 竹内 一郎 | 高校15期 | 金坂 喜好 |
| 高校2期 | 金坂 喜夫 | 高校16期 | 井上 伸久 |
| | 久保田 幸雄 | | 梅木 隆志 |
| | 千葉 新一 | | 坪倉 司郎 |
| | 長崎 弘 | | 松本 耕司 |
| 高校3期 | 成合 茂博 | | 三成 宏二 |
| | 佐藤 藤芳 | 高校17期 | 松本 芳樹 |
| | 小川 伸江 | | 山口 悦子 |
| 高校5期 | 春日 敏邦 | 高校19期 | 岩田 一志 |
| | 客野 伸 | | 万波 迪義 |
| | 庄司 勉 | 高校20期 | 渡辺 悟 |
| | 松吉 孝明 | | 三好 資子 |
| | 山田 稔 | | 物種 慶子 |
| | 山本 達郎 | 高校23期 | 松本 潤 |
| 高校6期 | 田村 稔久 | 高校26期 | 松村 聡 |
| 高校7期 | 青戸 俊夫 | 高校29期 | 達山 暢 |
| | 廣政 俣彦 | 高校31期 | 宍道 弘志 |
| | 山本 雅昭 | 高校51期 | 荒井 悦加 |
| 高校8期 | 黒田 牧夫 | | |
| | 山崎 杲 | | |
| 高校9期 | 熱田 光信 | | |
| | 澄川 光成 | | |
| | 真野 透 | | |
| | 渡部 優 | | |
| | 木村 八重子 | | |
| | 清水 良子 | | |

(ご不審の点は事務局までご確認ください)

「古事記～はじまりの物語」

本間 恵美子 (高19)

島根県立八雲立つ風土記の丘所長、慶應大学卒、
NPO法人出雲学研究所副理事長、松江城姉さま鉄砲隊隊長



今日は大変歴史のある近畿双松会にお招きをいただきまして有難うございました。また久しぶりに近畿の同級生にお会いできて嬉しく、なつかしく思っています。

先ほど松江城姉さま鉄砲隊のこともふれていただきましたが、松江開府400年祭を記念して、市民の立場からも何かをしなければと思い、大阪、堺、丸亀、岩国などの先発の地の指導を受けて松江城鉄砲隊を結成。1年後に女性7人で姉さま鉄砲隊がスタートしました。「来年の大河ドラマは同志社を創立した新島襄の夫人である会津生まれの新島八重さんのお話ですが、八重さんは会津藩の砲術指南役の娘で鉄砲の心得があるとのことで、女性が鉄砲なんて「シェータモンダ」と言われることは「ナイワネ」と言いながら頑張っています。

本題の『古事記』の話ですが、これを延々と話せば膨大な時間が必要になりますので、かいつまんでお話をいたします。

まず、『古事記』は現存している日本最古の書物で、「日本人の原点を知る大変貴重な書物」です。『古事記』(713年)や『日本書紀』(720年)のできた背景ですが、蘇我氏や物部氏などの豪族の力が強くなり、それを心配したのちの天智天皇と藤原氏が天皇中心の政権を取りもどすために乙巳(いっし)の変(645年)を起こします。そして大化の改新があります。やがて天智天皇の後を受けて皇位継承をかけた壬申(じんしん)の乱(672年)となり、第40代の天皇として天武天皇が誕生(673年)するという時代でした。

壬申の乱の折、天武天皇側で大きな活躍をした出雲臣(いずものおみ)「狛(こま)」という人物が日本書紀に載っていますが、この出雲臣は今の千家・北島両国造家の先祖です。古事記の出雲神話の最後は大国主命(おおくにぬしのみこと)が国譲りをしたという出雲人にとって屈辱的な終わり方をしていますが、私は単純にそうとは思いません。そのあとも天皇家と出雲国造家は密接な協力関係にあったと思います。少し遡りますが、日本書紀の仁徳天皇の条には出雲臣の祖(おや)は淤宇宿禰(おうのすくね)であるという記載もあり、この淤宇宿禰も仁徳天皇との密接な関係がうかがえます。この淤宇(意宇)の地が今の安来から宍道に至る地域で、私の勤める「八雲立つ風土記の丘」のある地帯がその中心ですが、国造家の出自(出身地)も意宇にあったことは歴史上間違いありません。

天武天皇が『古事記・日本書紀』の編纂を思い立った時は、日本が天皇中心の「律」と「令」で守られた素晴らしい国家であることを海外(特に中国)に示す必要があり、そのためにはキチンとした書物が必要であったということだと思います。

『日本書紀』は正史として日本を代表する歴史書です。『古事記』は、私の想像ですがおそらく編纂の際に出雲臣などが出雲の国の歴史や伝承を語る場面があり、それを稗田阿礼(ひえだのあれ)、太安麻呂(おおのやすまる)の手を通じてまとめられたと思います。『古事記』は編纂を命じた天武天皇の時代にはできあがらず一次中断しますが、姪の元明天皇(女帝)の時代に完成しました。『日本書紀』は7年後に完成します。

加えて、私たち出雲に住む者にとっては、古事記だけでなく『出雲国風土記』の存在も大きな意味があります。『古事記』編纂の翌年の713年に元明天皇から「風土記撰進の詔」が発せられますが、当時日本の62ヶ国の中で完本として今も伝えられているのは『出雲国風土記』のみです。島根にとって素晴らしく、自慢できることだと思います。この風土記により、山や川の名や地名、古老の言い伝えなどが伝承され、今にも生きており、当時の出雲をうかがい知ることができるのは風土記があればこそであることを申し添えておきます。

さて、『古事記』の内容ですが、これは「上つ巻、中つ巻、下つ巻」の三巻に分かれ、「上つ巻」には国や神々が生まれ、やがて神武天皇が誕生するまでが描かれています。

【資料】

『古事記』上つ巻(国の成り立ちから神武天皇誕生まで)の内容。(三分の一以上が出雲神話)

I. 伊耶那岐命と伊耶那美命

①淤能基呂島 ②神の結婚 ③国生み・神生み ④伊耶那美命の死 ⑤黄泉の国 ⑥みそぎ ⑦三貴子の分治

II. 天照大御神と須佐之男命

①須佐之男命の昇天 ②うけい ③天の石屋 ④須佐之男命の追放 ⑤八俣の大蛇退治 ⑥須賀の宮

III. 大国主命

①稲羽の素戔 ②根の堅州国訪問 ③八千矛の神 ④大国主命の系譜 ⑤大国主命の国作り ⑥大年神の系譜

IV. 忍穂耳命と邇々芸命

①葦原中国の平定 ②天若日子の派遣 ③建御雷神の派遣 ④大国主命の国譲り ⑤天孫降臨 ⑥猿女の君 ⑦邇々芸命の結婚

V. 日子穗々手見命と鵜草草不命

①海神の国訪問 ②鵜草草不命(注、神武天皇の父)の誕生 ③鵜草草不命の系譜

【資料】

『古事記』には「はじまり」がいっぱい

【結婚・愛(親が決めた?女神がプロポーズ?)】【夫婦喧嘩】【ストリップ?神楽?】【酒銘柄】【和歌】【育児放棄】【浮気】【不倫】【出雲大社】【国際結婚】

この世で初めての夫婦の神である伊耶那岐命(いざなぎのみこと)と伊耶那美命(いざなみのみこと)は沢山の神々を生みます。が、最後に生んだのが火の神であったため、妻である伊耶那美命は焼け死んでしまいます。その時、伊耶那岐命は枕元や足元に腹ばいをして大泣きをしたとあり、いきなり「夫婦愛」の素晴らしさが書かれています。あきらめられない伊耶那岐命は死者の国である黄泉(よみ)の国(東出雲町にある黄泉比良坂(よもつひらさか)はその伝承地)へ迎えにいきますが、伊耶那美命がとてもひどい姿になっていたため逃げ帰ってしまい、追いかけてきた伊耶那美命との間で、黄泉比良坂の大きな岩を境にして、「事戸(ことど)わたし(離別の言葉の意味)」をします。伊耶那美命は怒って「一日1,000人の人を殺してやる」と言い、伊耶那岐命は「一日1,500人を産んでみせる」と応酬をします。これが「夫婦喧嘩」のはじまりであると言う人もいます。

しかし、よく『古事記』を読んでみると、喧嘩ではあるけれど、お互いに「愛するあなたよ」と呼びかけてから応酬をしています。皆様も、同じように呼びかけてから文句を言うようになさったら、夫婦喧嘩にもならないのではないのでしょうか。

そして、伊耶那岐命は黄泉の国から帰って汚れた身体(みそぎ)をしますが、その時、左目を洗ったときに生まれたのが天照大御神(あまてらすおおみかみ)、右目から月読命(つくよみのみこと)、鼻から生まれたのが須佐之男命(すさのおのみこと)とされています。(なぜ左目が天照か?“天皇の座す宮殿は南面する”とされ、南向きの場合、中央の天皇からみて東側(左側)が上座だと言われていることからだろうと思います)

この後、物語は高天原（たかまがはら）に移ります。須佐之男命は大変な暴れ者で、乱行を重ねますが、それを怒った天照大御神（太陽神）は岩屋に隠れてしまい、世界は闇に覆われ、草木も枯れてしまいます。困った神々は天之宇受売（あめのうずめ）に頼んで、天岩屋の前で踊りを踊ってもらいます。「何事か」と思った天照大御神が外をのぞいた瞬間に岩屋を封印し、高天原に光が戻ったと書かれています。

この踊りは肌も露わな激しい踊りでしたので、これを「ストリップ」のはじまりという人もいますし、「神楽」のはじまりという人もいます。いずれにしても天之宇受売は神がかりになって一生懸命踊ったのでしょう。呪術師でもあったのでしょう。のちに朝廷の祭祇を司る者たちの祖になったと言われています。また、日本書紀ではこのとき天之宇受売は「巧みに俳優（わざおぎ）をなす」と書かれています。「俳優」という言葉は歌や踊りが自由に、上手にできるという意味であったのだと思います。

こうして、須佐之男命は高天原を追われ、奥出雲の国に降り立ちます。ここで八岐大蛇（やまたのおろち）の生贄にされようとしていた櫛稲田姫（くしなだひめ）を助けるために大蛇を退治することになります。その時、大蛇退治のために「やしおりの酒」という甘くて強いお酒（どぶろく）をつくらせますが、「お酒の銘柄」が登場するのもこれからはじめてです。（「やしおりの酒」の復元はさまざま



な挑戰がされていますが、まだ実体はわかっていません）

そして、櫛稲田姫の親は天照大御神の弟である身分の高い須佐之男命に「娘を差し上げます」ということになります。櫛稲田姫は出雲の女

性としてはじめて古事記に登場したことになりますが、その性格は一切描かれていません。親の言うがままの結婚に素直に従う女性として描かれています。八岐大蛇の神楽でも、櫛稲田姫は舞台の上にあっても一切演技をすることがありませんが、演じようがないだろうな、ということが古事記からうかがえます。

須佐之男命は櫛稲田姫を愛して、やがて垣根で囲った八重垣神社をつくり、「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣造る その八重垣を」の歌を歌いますが、この歌も日本の「和歌」のはじまりだとされています。後に、紀貫之は『古今和歌集』の『仮名序』の中で、この歌こそ日本の三十一文字（みそひともじ）のはじまりであると称えています。

さて、須佐之男命の話はここまでにして、六代目の孫にあたる大国主命の話に移ります。

大国主命は沢山の名前を持っている人で、最初は大穴牟遲神（おほなむぢのかみ）と言い、初めて古事記に登場するのが「稲羽（因幡）の素戔」です。素戔伝説は皆様ご承知のとおりですが、実はここから延々と古事記は大国主命に関する話が続きます。素戔伝説は大穴牟遲神が兄神たちと一緒に稲羽に住む美しい八上比売（やがみひめ）に求婚をしに行く途中の出来ごとですが、今日は横におきます。

結局、八上比売は「私は大穴牟遲神を選びます」と宣言し、ここでは自分の意思を述べる女性が描かれています。

このことで兄神たちから恨まれた末っ子の大穴牟遲神は二度にわたって殺されます。例えば赤いイノシシに見せかけた真っ赤に焼けただれた石を抱かされるなどして殺されます。この時はお母さんの母乳とウム貝、キサ貝という天からつかわされた二人の貝の女神によって再生します。再生すると、より立派になって歩きだしたと書かれています。つまり、これから国をまとめる長になる大穴牟遲神のために、殺されても再生する、力が強くなっていく、という「勇者の資格」がここで述べられているように思います。

しかし、また兄神たちに襲われるということで、母や神々にすすめられ「根の国」にいる須佐之男命に会いに行きます。その途中で会ったのが須佐之男命の娘である須勢理毘売(すせりひめ)で、この時、須勢理毘売は、大穴牟遲神に目配せ(ウィンク)をして結婚をしたと言います。今度は自分からプロポーズする、今までとは違うタイプの女性の登場です。「スセリ」には突き進むという意味があり、出雲には珍しいタイプの女性と言えます。

須佐之男命は、自分の娘婿にふさわしいかどうか、大穴牟遲神に様々な試練を与えますが、そのたびごとに須勢理毘売の手助けによって窮地を脱していきます。そして最終的には、須佐之男命の宝である「弓矢、大刀(武力の象徴)、琴(呪力(神の力)の象徴)」を奪って、須勢理毘売を背負って須佐之男命の元を脱走します。黄泉比良坂まで追ってきた須佐之男命は、大穴牟遲神を認めて、「その弓と刀で出雲の国を平定し、出雲の長となるように」と言います。また、新しく名前を授けて、ここで「大国主命(おおくにぬしのみこと)」が誕生します。そして、大国主命と須勢理毘売は力を合わせて出雲の国を豊かな国にするために頑張っていくのです。

ところで、大国主命は大変な艶福家でもありまして、全国に彼女がいっぱいいるのです。ある時、稲羽の国から最初の妻である八上比売が大国主命の息子連れて会いにきますが、須勢理毘売の嫉妬深さを聞かされて、今の「湯の川温泉(簸川)」のところで木の股に子供を置いて稲羽に帰ってしまいます。これは最初の「育児放棄」なのでしょう。私はそうではないように思います。出雲の長となった大国主命の若い時の最初の奥さん、最初の子供ですから、この豊かな出雲の国の長の二代目になれるのではないかと、泣く泣く考えた結果の母親の気持ちだったのではないのでしょうか。私は単なる「育児放棄」ではないと思います。

ある時、大国主命は須勢理毘売のやきもちに嫌気がさして、大和の国に旅立とうとします。馬の籠に足を掛けながら、「寂しくはないか？」と問い

ます。須勢理毘売はいつもとは違って、「私は女ですから、あなたの他に男はいないし、夫はいないのです」と、やさしく語りかけます。この歌を聞いて心を打たれた大国主命は、直ちに盃を交わし、うながりけりて(首に手をかけて抱き合う)、旅立ちを取りやめたと言います。もし、この時、大国主命が出雲を離れていれば、今の出雲はなかったのかもしれませんが。そう考えると須勢理毘売の出雲の国に対する功績は真に大きく、大恩人であると言えるのではないかと、私は思います。



その次に、お手元の資料では「不倫」と書いていますが、これは次の「国譲り」の中で出てきます。「国譲り」と言えば、普通であれば戦いに負けた方が徹底的に蹂躪をされるのが世の常ですが、天照大御神と大国主命の間では、途中、言代主神(ことしろぬしのかみ)や建御名方神(たけみなかたのかみ)の二人の息子たちとのやりとりはあるにせよ、最終的には国を巻き込むような戦いを挑むこともなく円満に国が譲られます。ここに日本人、あるいは出雲人の原点を見る思いがします。

天照大御神は国譲りのために二人の使者(天穗日命(あめのほひのみこと)、天若日子(あめのわかひこ))を送りますがいずれも失敗してしまいます。最初の天穗日命は今の神魂神社の近くにお釜に乗って降り立ったと言われ、国造家の祖と言われています。二番目の天若日子はすばらしい美男子で、大国主命の美しい娘、下照比売(したてる

ひめ)と、高天原に妻子があるにもかかわらず結婚してしまいます。大国主命の後継者になりたいという思いもあったようです。やがて自分の放った矢で死んでしまいます。最終的には力の強い建御雷神(たけみかづちのかみ)を派遣して、漸く「国譲り」となります。

しかし、大国主命は国は譲るけれども、自分の隠居所として立派な天まで届くような高い建物を建てることを条件とします。天照大御神がそれを認めて建てたのが、「**出雲大社**」のはじまりです。徹底的に討ち果たすのではなく、非常に日本的であり、お互いに素晴らしい気持ちの中での「国譲

[資料]

皇后陛下御話より 抜粋 (1998年 第26回国際児童図書評議会)

(前略)年代の確定出来ない、6世紀以前の一人の皇子の物語です。倭建御子(やまとたけるのみこ)と呼ばれるこの皇子は、父天皇の命を受け、遠隔の反乱の地に赴いては、これを平定して凱旋するのですが、あたかもその皇子の力を恐れているかのように、天皇は新たな任務を命じ、皇子に平穏な休息を与えません。悲しい心を抱き、皇子は結局はこれが最後となる遠征に出かけます。途中、海が荒れ、皇子の船は航路を閉ざされます。この時、付き添っていた后、弟橘比売命(おとたちばなひめのみこと)は、自分が海に入り海神のいかりを鎮めるので、皇子はその使命を遂行し覆奏してほしい、と云い入水し、皇子の船を目的地に向かわせます。この時、弟橘は、美しい別れの歌を歌います。

「さねさし相武(さがむ)の小野(をの)に燃ゆる火の火中(ほなか)に立ちて問ひし君はも」

このしばらく前、建(たける)と弟橘とは、広い枯れ野を通っていた時に、敵の謀(はかりごと)に会って草に火を放たれ、燃える火に追われて逃げまどい、九死に一生を得たのでした。弟橘の歌は、「あの時、燃えさかる火の中で、私の安否を気遣って下さった君よ」という、危急の折に皇子の示した、優しい庇護の気遣いに対する感謝の気持を歌ったものです。

悲しい「いけにえ」の物語は、それまでも幾つかは知っていました。しかし、この物語の犠牲は、少し違っていました。弟橘の言動には、何と表現したらよいか、建と任務を分かち合うような、どこか意志的なものが感じられ、弟橘の歌は——私は今、それが子供向けに現代語に直されていたのか、原文のまま解説が付されていたのか思い出すことが出来ないのですが——あまりにも美しいものに思われました。「いけにえ」という酷(むご)い運命を、進んで自らに受け入れながら、恐らくはこれまでの人生で、最も愛と感謝に満たされた瞬間の思い出を歌っていることに、感銘という以上に、強い衝撃を受けました。はっきりとした言葉にならないまでも、愛と犠牲という二つのものが、私の中で最も近いものとして、むしろ一つのものとして感じられた、不思議な経験であったと思います。

この物語は、その美しさの故に私を深くひきつけましたが、同時に、説明のつかない不安感で威圧するものでもありました。

古代ではない現代に、海を静めるためや、洪水を防ぐために、一人の人間の生命が求められるとは、まず考えられないことです。ですから、人身御供(ひとみごくう)というそのことを、私が恐れるはずはありません。しかし、弟橘の物語には、何かもっと現代にも通じる象徴性があるように感じられ、そのことが私を息苦しくさせていました。今思うと、それは愛というものが、時として過酷な形をとるものなのかも知れないという、やはり先に述べた愛と犠牲の不可分性への、恐れであり、畏怖(いふ)であったように思います。

まだ、子供であったため、その頃は、全てをぼんやりと感じただけなのですが、こうしたよく分からない息苦しさが、物語の中の水に沈むというイメージと共に押し寄せて来て、しばらくの間、私はこの物語にずい分悩まされたのを覚えています。(後略)

り」であったと私は思います。

この「国譲り」のところまでで、出雲の神話は終わります。

『古事記』は、続いて「天孫降臨」の章に移り、天照大御神は邇々芸命(ににぎのみこと)を高天原から降臨させます。邇々芸命は木花佐久夜毘売(このはなさくやひめ)という桜の花を象徴する美しい女性に出会い求婚します。父親の大山津見神(おおやまつみのかみ)は姉の石長比売(いわながひめ)と一緒に嫁がせようとしますが、邇々芸命は石長比売が容姿の劣る女性でしたので、実家に返してしまいます。

大山津見神は、姉の石長比売がいれば名前のように岩のようにどっしりとして苦難の時も耐え忍び、子孫の寿命も永久に続くことを願って一緒に嫁がせたが、妹だけでは華やかではあるけれども寿命ははかないものとなってしまおうでしょう、と答えています。この時以来、人々には「寿命」ができ、天皇家にも寿命というものができたと言われています。

まだまだ、この後も、『古事記』は最終的に神武天皇が誕生するまで面白い話が続きます。今日は時間に限りがありますので端折りますが、あと一つだけ神武天皇誕生の際のお話を紹介いたします。

邇々芸命の息子で、神武天皇の祖父である火遠理(ほをり)(山佐知毘古(やまさちびこ))は、兄(海佐知毘古(うみさちびこ))との確執の中で海の底にある綿津見宮(わたつみのみや)に向かいます。そこで海底(竜宮城)のお姫様、豊玉毘売(とよたまひめ)と結ばれますが、実はこの姫が「サメ」であったということです。つまり、神武天皇の祖母は竜宮城の主で「サメ」であったということになります。

これは、天皇家が普通一般の庶民とは違うということを書いたかったのではないかと思います。もしかしたら「国際結婚」の走りではなかったのかなと私は考えています。

ことほど左様に、『古事記』というのは難しく読んでしまうと大変難しい学問的なものになってしまいますが、今のようにちょっと見方を変えて、女性の視点から、あるいは違う観点から読んでいただければ、大変面白いものであると考えています。そして、日本人の原点というものを知るための素晴らしい古典であるというように感じていただきたいと思います。

最後になりますが、1998年に皇后陛下が第26回国際児童図書評議会に寄せられたお話を資料でご紹介します。大会はニューデリーでおこなわれましたが、その時インドが核実験をおこなったために、直接の講話は取り止められ、宇宙中継でこの演説をなさいましたが、その一節をご紹介します。

皇后陛下は、「一国の神話や伝説は、正確な史実ではないかもしれませんが、不思議とその民族を象徴します。これに民話の世界を加えると、それぞれの国や地域の人々が、どのような自然感や生死感を持っていたか、何を尊び、何を恐れたか、どのような想像力を持っていたか等が、うっすらとですが感じられます。」と述べられています。私も常々そのように感じておりますが、皆様にも是非ご認識いただいたいと思うお言葉です。

資料(後掲)にあるその後の皇后陛下のお話は、戦時中、疎開をなさっておられたときに、お父様から古事記を贈られて読んだ時の思い出と感想を述べられたものです。時間がありませんので今日ではご紹介できませんが、是非ご一読をいただければ幸いです。

以上で終わらせていただきます。ご清聴有り難うございました。

■第5回落語鑑賞会(亀屋寄席)

日時／平成24年3月18日(日)
場所／高槻・割烹旅館「亀屋」

今回は昨年に続き高槻市芥川商店街にある老舗旅館亀屋で行われる亀屋寄席での開催となり、会員家族を含め13人が参加しました。

集合が12時、開演は14時ということで、まずは別に用意された部屋でゆっくりと昼食&宴会となりました。その際、おひとりの方が一向にお見えにならないのでご自宅に電話したところ「すっかり忘れていた」ということでしたが、それからお家を出て駆けつけられても余裕で開演に間に合いました。昼食後開演というこのシステムはこういう場合は大変助かりました。

今回の出演は笑福亭福笑師匠、お任せ三席ということで、お得意の新作落語「大統領の陰謀」、「浪曲やくざ」、「同窓会」を続けての熱演でした。時事ネタをふんだんに織り込んだ軽妙な噺に爆笑の連続でした。



◆参加会員は以下の方々です。(敬称略)
荻田運三郎(高1)、鳥谷芳男(高2)、廣政俣彦(高7)、後藤武久・田中一男・押田良樹(高11)、萩野貫悟(高12)、土田和男・松本耕司(高16)、三好資子・山崎麻里子・渡辺悟(高20)

■第32回ゴルフコンペ

日時／平成24年5月30日(水)
場所／武庫ノ台ゴルフコース

梅木隆志さん(高16)が初優勝!

恒例のゴルフコンペは好天に恵まれ23名が参加して、いつものとおり武庫ノ台ゴルフコースで開催されました。

ゴルフコンペ開催は今回で32回を数えますが、参加者数23名は過去最多と並ぶ人数で盛況となりました。

熱戦の結果、梅木隆志さん(高16)がグロス85、ハンディ14.4(Wペリア)、ネット70.6の成績で初の優勝を遂げました。グロス85は三吉孜さん(高16)とともに今回のベストグロスであり、実力どおりの堂々の優勝でした。ただもう一人のベストグロス三吉さんの方はハンディが7.2と出て15位と明暗を分けました。

2位は初参加の糸川孝一さん(高31)で同じく94、22.8、71.2。3位は太田厚さん(高11)で102、30、72という結果でした。



◆参加者は以下の方々です。(敬称略)

前列左から：松本耕司(高16)、三好資子(高20)、佐野和子(高20)、木村八重子(高9)、山田稔(高5)、寺本尚由(高5)、客野伸(高5)、山本雅昭(高7)、廣政俣彦(高7)、畑田稔(高11)、押田良樹(高11)
後列左から：藤城坦(ゲスト)、梅木隆志(高16)、井上隆吉(ゲスト)、仁宮龍聖(高5)、伊藤征治(ゲスト)、糸川孝一(高31)、澄川光成(高9)、宗智海(高9)、三吉孜(高16)、太田厚(高11)、安達和彦(高15)、井上伸久(高16)

■第7回「文楽」鑑賞会

日時／平成24年7月22日(日)
会場／国立文楽劇場

文楽鑑賞会も7回目、今年もゲストを加えて17名の方のご参加がありました。橋下大阪市長の方針で国立文楽劇場の運営が大きく揺れる中でしたが、7年継続の実績から文楽劇場の皆様にもあたたかく迎えられ、楽しく鑑賞することができました。



人斬り」では斬られた首が飛ぶわ、足が飛ぶわといった大スペクタクルが展開・・・。

●『契情倭莊子』(けいせいやまとぞうし) / 蝶の道行

この世で結ばれなかった恋人たちが蝶の姿となって舞い遊ぶ、しかし、やがて地獄の責め苦を受ける運命が…。

今回はあらためて、文楽を観賞するということは、我々の心の奥底に息づいているだろう江戸期先人たちの道德観、価値観を確認することでもあるのだなあと、深く納得、堪能した4時間でした。

■夏休み文楽特別公演「名作劇場」

●『摂州合邦辻』(せっしゅうがっぼうがつじ) / 合邦庵室の段

大名家の継母(玉手御前)と継子(俊徳丸)の間の恋?にお家騒動(なぜ、玉手は俊徳丸に目の見えなくなる毒を盛ったのか?)とにぎやかな筋立て。そして、これを知った清廉潔白で頑固な父、合邦は不義?の娘、玉手に怒りの刃を突き立てる…など、最後まで話の筋は分かりにくいのですが、死にいく玉手が語る事の真相に、江戸時代の観客は貞女の鑑として拍手喝采を送ったのです。(限られた紙面ではとても説明できません)

天王寺の近辺に「合邦辻(がっぼうがつじ)」という辻があるそうですが、皆様、ご承知ですか? そう言えば近鉄にも「俊徳道」という駅がありましたね。関係があるのかなのか、確認の必要がありそうです。

●『伊勢音頭恋寝刃』(いせおんどこいのねたば) / 油屋の段・奥庭の段

伊勢の参宮帰りで賑う古市を舞台にした夏狂言の代表作。妖刀「青江下坂」が引き起こす「十

◆参加会員は以下の方々です。(敬称略)

春日敏邦・吉岡通子(高5)、真野透ご夫妻、佐々木悦子、木村八重子、清水良子(高9)、加藤巡一ご夫妻(高14)、土田和男・松本耕司(高16)、石橋和代(高60)、楠本範子・宮地登美子・松岡茂、橋本充男(ゲスト)



■日本陸上競技選手権大会応援

日時／平成24年6月10日(水)
報告／松本耕司(高16・陸上部OB)

会員の荒井(辰巳)悦加さんが“日本チャンピオン”に！

～2012年6月10日 第96回日本陸上競技選手権大会(女子3000m障害)～

会員の荒井(旧姓辰巳)悦加さん(高51、エディオン所属)が、標記の大会で女子3000m障害の女王、早狩実紀(京都光華AC)さんの7連覇を阻み、オリンピック派遣B標準記録には届かなかったものの、初の日本チャンピオンになった。

135年の歴史を有するわが母校であるが、陸上競技で日本チャンピオンに輝いたのは、1961(S36)年の男子棒高跳の山田寧さん(高9、当時日体大)以来、51年ぶりの二人目、女性では初めての偉業で、これまでの荒井さんの努力を心から讃えたい。

荒井さんは2007年の世界陸上競技選手権(大阪)に日本代表として出場の後、実業団のノーリツを経て2009年に広島市に本社をおくデオデオ(現エディオン)に移籍し、現在は松江店に勤務している。結婚後の新居を鳥取県境港市にかまえ、基本的にはひとりで練習し、合同練習時には広島に出かけるという中で競技者生活を続けてきているもので、厳しい条件の中でこの快挙にたどりついたものである。

近畿双松会との関係では、2007年の大阪での世界陸上時に応援をしたのを機会に同年の近畿双松会総会で講演、同時に最年少の会員として入会されるなど、その謙虚で明るい人柄から多くの会員の応援を得るようになっている。

世界陸上出場後の数年は、成績に恵まれたとは言えず、足の故障、また今年になってからの



不整脈の手術などの試練もあったが、今回の大阪での日本選手権の前にはアメリカの合宿で十分な走り込みができたとの連絡が入ったことから、陸上競技部関係者のみならず、広く会員の方にお声をかけて長居に集合することにした。

当日6月10日(日)は、総勢13名が集合。15時20分、快晴のもとでレースが開始された。レースは女王の早狩さんが先頭を切る形で始まったが、早狩さんの調子が上がりず(最終7位)、最後の2周は先頭を逃げる中村選手(パナソニック)を荒井さんが追走するマッチレースになり、「最初に早狩さんに勝つのは自分」と言い聞かせていた荒井さんが、最後の水濠を終えてからの150mを見事なラストスパートを見せて逆転、そのままゴールに駆け込んで初の日本チャンピオンに輝いた。記録は9分55秒93。自己ベストの9分53秒87にはわずかながら及ばなかった

が、日本選手権では3年ぶりの9分台を出しての快心のレースだった。

応援の13名も最高の結果に大喜びをし、レース後に応援のお礼にスタンドを訪れた荒井さんと記念写真におさまってもう一度大満足、さらに男性陣は長居駅前で祝杯をあげるなどして、素晴らしい一日が終わった。

レース後、荒井さんは2013年8月のモスクワでの世界選手権出場を目標に練習を重ねたいと語っており、早狩さんを破って日本チャンピオンになった自信を土台に、更に大きな飛躍を遂げて欲しいと祈っている。今後とも会員の皆様のご関心、ご支援を心からお願い申しあげたい。



■当日のご参加者は以下の方々です。
(敬称略)

伊藤雅義(高1)、寺本尚由(高5)、
押田良樹(高11)、藤城綾子(高12)、
藤城坦(ゲスト)、二階堂孝子(高15)、
松本耕司(高16)、木島光子(高17)、
江角健一・万波迪義(高19)、田中年
恵(高29)

・寺本尚由さんから、陸上部大先輩の吉岡孝夫さん(中68)、吉岡幹雄さん(高4)にこの結果の報告をされ、大喜びをいただいたとのご連絡をいただいている。



■第2回「里山歩くぞ！ハイキング」柳生の巻（第1回「健脚ウォーキング」改め）

日時／平成24年10月21日(日)

昨年、企画した「第1回健脚ウォーキング」は、箕面山中を歩きましたが、ネーミングで敬遠されたのか参加者も7名と少なく、また実際の行程も起伏の多い山道で年配者にはやや酷な面もありました。

そこで、今年からネーミングも「里山歩くぞ！ハイキング」と改め、コースも比較的平坦な「里山を歩こう」ということにし、最初のコースを「柳生の里」に設定した次第です。

ところが、近鉄奈良駅から柳生へは20kmをこえる山坂もあるコースで、バスも1時間に1本あるかないかで、軽めの日帰りコースを設定するのは至難の業とわかりました。

そこで、古川幸孝さん（高12）、田中由美子さん・土田和男さん・森藤哲章さん・松本耕司さん（高16）の5人が下見に乗り出した訳ですが、一回目は滝坂の道コースを忍辱山（にんにくせん）円成寺（えんじょうじ）から奈良まで歩き、二回目は柳生から円成寺まで歩き、三回目はその逆の円成寺から柳生までを歩き、三回の下見を経て漸く満足のいける今回のコース（近鉄奈良駅からバスで行程中間地点の円成寺まで行き、円成寺から柳生の里まで約9kmを歩き、柳生からは一気にバスで近鉄奈良まで帰る。難所？は阪原峠の登り一ヶ所だけ）ができあがりました。古川さん、森藤さんは三回とも下見に参加されるという大貢献をされました。厚く御礼申し上げます。

こうしてできあがった手作りのコースに、当日の参加者は大満足。最年長の寺本尚由さん（高5）も軽々と阪原峠を踏破され、野の草花に造詣の深い田中英明さん（高9）の授業を受けながら、楽しく柳生の里山を満喫し、全員無事に「完歩」できました。（参加者男性陣で、近鉄奈良駅近くで祝杯を上げたことは言うまでもありません）

詳しくは別記、今藤レポーターの報告をご覧ください。

次回のコースは未定ですが、日本の原風景「里山」を中心にした無理のない行程を企画しますので、会員の皆様のご参加をお待ちしています。



なお、3回も下見をされた森藤さんが、本番前に広瀬のご尊父様が亡くなられて帰省され、ハイキング当日も最後まで参加をされようと努力されましたが、流石に無理があり過ぎるので残念ながら断念するというお電話を、帰路の米子道・蒜山SAからいただくというドラマがあったことを付記いたします。

◆参加会員は以下の方々です。（敬称略）

寺本尚由（高5）、田中英明・木村八重子・清水良子（高9）、押田良樹・畑田稔（高11）、古川幸孝・宮原琢郎（高14）、安達和彦（高15）、土田和男・松本耕司・田中由美子（高16）、今藤美富（高28）
＜下見3回＞森藤哲章（高16）



◆「里山歩くぞ！ハイキング」柳生の巻に参加して

●●● レポート 今藤 美富 (高28) ●●●



入会間もない私が初参加させていただいたのは、「柳生街道・剣豪の里コース」というハイキングでした。

<平成24年10月21日(日)／行程表(9km)>

近鉄奈良駅バス停(9:41発)⇒忍辱山(円成寺)⇒南明寺(昼食)⇒芳徳寺⇒家老屋敷⇒柳生バス停(15:51発)⇒近鉄奈良駅(16:40着)

お天気にも恵まれ、初参加に胸躍らせ、ドキドキ、ワクワクしながら、近鉄奈良駅「行基の像」の前に9時15分に集合しました。総勢13名の健脚揃いの皆さまとともに、私(服装、リュックなどの装備は一応健脚(そう)に見える?)も運行本数の少ないバスに乗り込み出発いたしました。車内は満員!色とりどりのリュックサックの花が咲いていました。あらためてハイキングやウォーキングで自然やのどかさを満喫したいという人々の想いが伝わってきました。

一番後ろの席が空いていたので40分前後のバス道中も心地よく、隣の初対面の方(歴史に詳しく超健脚、20kmもOK!)とも談笑できました。あっという間に円成寺に着き、運慶20歳頃の作品「大日如来像(国宝)」を拝観し、いよいよ自然道へスタートです。

道中、出雲弁?松江弁がちらほら飛び交い久しぶりに松江を身近に感じる事ができました。私の隣村の方がいらっしゃったり、叔母の嫁ぎ先の地区の方もいらっしゃいました。

コース途中で「夜支布(やぎゅう)山口神社」に立ち寄り、境内の「立磐神社(春日造り)」、その後ろにあるご神体の大きな岩を見ることができました。

曲がりくねった道の両側には、大和棟の大柳生の集落が立ち並び、自然豊かで一昔前の子どもの頃にタイムスリップしたような気がしました。皆さんと会話が弾み過ぎて、うっかり道標を見逃したりして、始終笑いが絶えない道中でした。

昼食は、「南明寺」(鎌倉時代に建立された寄せ棟造りの古刹で、薬師、釈迦、阿弥陀の3如来が安置されている)近辺でという予定でした。寺内には飲食禁止!の看板があり、少し探索して未来の別宅?(墓地)をすり抜けて小高い丘で皆さ

んとお弁当を広げました。ほどよい風が吹き抜けとても快く感じました。

昼食後は、「お藤井戸」(柳生の殿様が馬上から洗濯中のお藤さんと頓智問答の末、お藤さんの賢さに惚れ嫁に迎えたというロマン井戸)に願をかけ?、いよいよ待望?の急な上り坂(阪原峠)300mにかかり、憧れの柳生の里を目指しました。

途中で杖がわりの丸杖を現地調達すると、何だか私もいつの間にか健脚になった?ような気になりました。これも皆さんの助けがあったからこそだと思い、感謝しております。

坂登りの途中で、孫へのお土産を発見!(とても大きな松ぼっくり)、日が経つと松かさが開いてもっと立派になる、という教えもいただきました。少し欲張って7個、自然の恵みを分けさせていただきました。(ちなみに、12月のクリスマスには、白い綿、赤いフェルト帽子、緑のリボンでバアちゃん手作りのサンタさんに変身しました)

そして、阪原峠を無事に登り切り、悠久の里柳生に着くことができました。テレビでしか知らない柳生一族の菩提寺「芳徳寺」、柳生一万石の家老、小山田主鈴の旧邸「家老屋敷」など、柳生一族ゆかりの史跡を訪ね歩きました。剣豪の里、柳生は盆地にひっそりとたたずみ、まるで小さな独立国のようでもありました。

帰路のバス発車まで少し時間があり、皆さんと茶店(昔風な喫茶店)でコーヒーまで飲みました。あっという間の一日でした。皆さんのお蔭で初参加の私でも何とか最後まで歩き通すことができました。ありがとうございました。

最後に綿密な計画をたてられ、何度もルート確認の為、この地を訪られた幹事の方々には、感謝・感謝の一言です。そしてご一緒させていただきました大先輩の皆さま、楽しい一日をありがとうございました。

道伸:私が道中、無人野菜店で100円で買ったのは“渋柿”でした。少しショックでしたが干し柿にして実食いたしました。(笑)

■第7回歴史ウォーキング「清盛in神戸」

日時／平成24年12月2日(日)

テーマ：清盛が夢を馳せた神戸(大輪田の泊、兵庫の津)を探訪。
コース：JRより海(南)側 JR兵庫駅～福海寺～蛭子神社～柳原天神社～能福寺～真光寺～薬仙寺～名号石～和田神社～(昼食)～清盛塚～兵庫城跡～清盛くん～石椋～歴史館～来迎寺～七宮神社～鎮守稲荷神社～清盛ドラマ館～JR神戸駅(解散15時)⇒希望者打ち上げ



今回は今年のNHK大河ドラマ「平清盛」に因み、清盛が当初都の候補地として計画した和田京の寺社や史跡を訪ね歩くことにしました。折角、世話人有志が7月の暑い盛りに下見をしたのに、開催予定の9月30日には無情の台風17号の襲来。このまま実施しないままでは余りに残念だと、総会を終えて、外を歩くにはラストチャンスと思える師走2日に開催することを決めたものです。言わば、執念のリベンジ開催でした。

当日は、寒さが厳しいという予報でしたが、幸い太陽も出て穏やかな日和になり、ご参集いただいた13名の方々とにぎやかな一日を過ごしました。

詳しくは、別記、元栄レポーターの報告をご覧ください。



◆参加会員は以下の方々です。

(敬称略)

荻田運三郎(高1)、真野透ご夫妻(高9)、押田良樹(高11)、斎尾秀城・萩野貫悟(高12)、古川幸孝(高14)、土田和男・松本耕司・森藤哲章(高16)、木島光子(高17)、元栄徹(高19)、楠本範子・宮地登美子(ゲスト)



<打ち上げは女性4人を含む殆どの方が参加され、楽しい語らいのひと時を過ごしましたが、特に森藤哲章さん(高16)は、神戸でのお昼の広瀬中学の同窓会を終えて、打ち上げから参加されるというつわものぶりを発揮されました>

◆歴史ウォーキング「清盛in神戸」に参加して

●●● レポート 元栄 徹 (高19) ●●●



12月2日(日)の歴史ウォーキング「清盛in神戸」は9月30日(日)台風17号の影響で中止になったリベンジとして開催されたのにもかかわらず、ゲストの方2名を含め13名の参加がありました。直前までガイドさんが決まらないという連絡が事務局の松本さんからあり心配していましたが、そのガイドさんも直前になって9月30日に予定されていた矢倉さん、中野さんに決まり、本当によかったと思います。もし、ガイドさん不在の場合とは勉強をされていた押田会長、土田さんのガイドが聞けなくて残念でしたが。

今回の歴史ウォーキングはNHK大河ドラマの平清盛にちなんだミナト神戸の大輪田泊を中心とした18あまりの史跡・施設をめぐる街中ウォーキングです。

9時30分にレトロな雰囲気 JR兵庫駅に全員が集合し、出発です。最初は柳原蛭子神社です。島根県人にとって「えびすさん」といえば美保神社を思い浮かべますが、ここは残念ながら西宮神社を総本社とします。えびす神社は、主に美保神社を総本社とする事代主神系と西宮神社を総本社とする蛭子神系に分かれるそうです。(ウィキペディアより)。

福海寺、柳原天神社等に立ち寄り能福寺に着きました。能福寺には東大寺大仏、鎌倉大仏とともに日本三大大仏のひとつに数えられる兵庫大仏が鎮座しています。大仏さんの前で記念写真を撮とり能福寺をあとにしました。次の真光寺ではなぜかカラオケがあり、舟木一夫の「高校三年生」がかかっていました。なにか不釣り合いな感じがしましたが、高校時代を思い出し、懐かしい感じがしました。

途中、新川運河を眺めながら次は薬仙寺です。薬仙寺には大河ドラマでの清盛の好敵手、後白河法皇を幽閉した跡がありました。

和田神社に着く前の人目につかない住宅地のお堂の中に、法然上人ゆかりの名号石があり、「南無阿弥陀佛」と刻まれた石が安置されていた。和田神社には、平成25年の干支に関係がある巳塚があり多数のシロヘビが奉納されていました。近くにお住みの方は、ぜひ巳塚に参拝してみたいかがですか？

兵庫城跡前の運河沿いの公園で、各自持参の弁当で昼食を取り、清盛塚に立ち寄ってから歴史館の見学をしました。歴史館は神戸と清盛に関係する展示物があり、清盛が思い描いた福原京の輪郭がみえてきたようでした。

次に人柱になった松王丸の菩提を弔うために建てた来迎寺、七宮神社、鎮守稲荷神社に立ち寄り、最後の予定地、NHK大河ドラマ館に着きました。ここでチョットしたハプニングが発生しました。少し疲れた(?)とのことで数名の方がドラマ館をショートカットしてJR神戸駅の居酒屋へ直行されました。残り組はドラマ館を見学した後、居酒屋で合流することになりましたが、あいにく私は前日の忘年会の二日酔いで居酒屋は失礼して先に帰路につきました。

帰宅してからも、850年前の清盛時代の神戸に酔いしれていました。今回の歴史ウォーキングで新たな神戸の魅力を発見しました。次に神戸を訪れた際は長田辺り、大倉山・湊川辺りを散策しようと思っています。

最後に、幹事の松本さん、一緒に散策してくださった皆様ありがとうございました。

2013(平成25)年度「事務局会議有志」新年会(兼)総会実行委員会慰労会

日時／2013年1月11日(金)

場所／「がんこ曾根崎本店」

2012年11月10日の総会懇親会の開催に汗を流していただいた有志の皆さんとは、総会当日は同期の皆さんとの二次会が主になるため、お互いにねぎらい合うこともできなかったが、漸く年が明けてから16名が集合することができた。

目前に迫っている「新年役員懇親会」の準備会合の意味もあったが、早々に新年会・慰労会メ

インにシフトして、55周年記念の年の船出を祝い合った。隣地にある「お初天神」にお参りしてご加護を祈願したのは言うまでもない。

また、高22期の大浦綾子さん、鶴羽孝子さんが飛び入り参加をされ、22期の結集を期しておられたのは嬉しくもたのもしい限りであった。



◆参加者は以下の方々です。
(敬称略)

押田良樹・田中一男(高11)、
加藤巡一(高14)、梅木隆志・
松本耕司(高16)、岩田一
志・池田喜美代(高19)、渡
辺 悟・三好資子(高20)、村
田 貢・大浦綾子・鶴羽孝子
(高22)、松本 潤・橘千里(高
23)、千葉 潮(高30)、宍道
弘志(高31)

2013(平成25)年度 近畿双松会「新年役員懇親会」

日時／平成25年1月24日(金)
場所／中央電気倶楽部

新年役員懇親会は17名が出席して開催され、新年度の基本的な運営方針、行事予定などを話し合いながら、新年の懇親を深めた。

事務局からは、本年度が、①「設立55周年記念事業年」であり、②「会則改訂スタート年」でもあることの説明と、下記の取り組みに力を注ぐとの報告があり、了承された。

- (1) 設立55周年記念総会懇親会を盛大におこなうこと。(平成25年12月8日(日)開催、大阪市中央公会堂の抽選をめでたくゲット)
 - (2) 記念総会懇親会は150名以上の参加をめざし、各期の活動の活性化を図る。
 - (3) その他の55周年記念事業の推進。(下記総会時の記念講演会や記念会報の発行、バスツアーの検討など)
 - (4) 「会則改訂」の周知とスムーズな移行措置を図る。(改訂趣旨に即し、参加者の拡大につながる運用をめざす)
 - (5) 通常年開催の諸行事も、例年どおり開催。
- 出席者からは、55周年事業として「出雲風土記

バスツアー」は可能か？総会時の懇親会では、松江のおいしい食材やお酒などの福引き大会をしてはどうか？などの活発な意見が出され、いつしか「故郷なつかし懇談会」の様相を呈するなど、なごやかな新年会となった。

このご意見を参考に、事務局を中心に細部を検討していくこととして、新年役員懇親会は有意義に終了した。

◆参加役員は以下の方々です。(敬称略)

<会長>押田良樹(高11) <副会長>松本耕司(高16)・渡辺悟(高20)・松本潤(高23) <監事>梅木隆志(高16) <常任幹事>山田稔(高5)・廣政俣彦(高7)・金坂喜好(高15)・土田和男(高16)・岩田一志(高19)・三好資子(高20)・富岡幸子(高35) <幹事>田村稔久(高6)・山崎杲(高8)・清水良子(高9)・萩野貫悟(高12)・池田喜美代(高19)



平成24年度 松江北高十大ニュース(日付順)

(注)この記事は河原一朗校長、足立芳樹教頭の両先生に特別制作のご協力をいただきました。

◆平成24年3月25日

全国高等学校弓道選抜大会 女子団体優勝

部活動団体優勝は、昭和58年合唱部のNHK全国学校音楽コンクールにおける最優秀賞受賞以来29年ぶりの快挙。

全国優勝記念のモニュメントを作製し、11月30日、中庭において、全校生徒の列席により、除幕式を行った。



◆3月31日

国公立大学(現浪計) 213名合格

東京大学4名、京都大学4名、国公立大学医学科13名を含む213名の生徒が国公立大学に合格した。

私立大学の合格者数は、延べ290名であった。

(※)昨年度の集計・北高HPに詳細を掲載。



3年生放課後の自主学習風景

◆4月1日

双松会員 河原一朗 松江高校・松江北高第22代校長就任

高校23期卒業生の河原一朗が、双松会員としては、5人目の学校長として就任した。



◆5月25日～6月2日

第50回島根県高等学校総体体育大会

～3年連続13度目の男子総合優勝

男子総合の部において、13度目の優勝を飾った。男女総合の部は、惜しくも優勝出来ず4位であった。

今年までの男女総合優勝の回数は、50年間の県総体の歴史において、昭和の時代に6回、平成の時代に17回、合計23回である。



県高校総体の結団式

◆7月14日

世界ジュニア陸上競技選手権大会(スペインバルセロナ大会)

～男子4×100m R 銅メダルを獲得

金森和貴(3年)が日本代表の一員として、男子4×100mリレーのアンカーとして出場し、アメリカ、ジャマイカに続き、銅メダルを獲得した。



校長による銅メダル贈呈式

◆平成24年7月31日

校舎バリアフリー化工事終了

渡り廊下や玄関等のバリアフリー化、階段の手すりの修理、多目的トイレの設置、管理棟のエレベーターの設置が完成した。



管理棟1階のエレベーター及び多目的トイレ

◆8月10日

全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた読手部門 最優秀賞を受賞

上記の全国大会が富山県で行われ、岡田優（2年）が高校日本一に相当する最優秀賞を受賞した。



◆10月21日

日本ジュニア陸上競技選手権大会 男子110mH全国優勝

名古屋市で、大学生を含めた20歳未満の選手による上記の全国大会が開催された。矢田弦（3年）が男子110mHにおいて、タイム14秒09で優勝した。



◆12月22日～25日

東日本大震災「島根県災害ボランティア隊（高校生）」 北高生徒25名参加

東日本大震災の被災地の復興支援ボランティアを島根県社会福祉協議会と北高が計画し、宮城県南三陸町においてボランティアを行った。ボランティア隊は、1、2年生25名と教員ら4名で構成。3泊4日（バス内2泊）の日程で出かけ、がれき処理や倒壊家屋の片付けなどの作業を手伝った。



◆平成25年3月17日

松江北高通信制課程閉課程式

平成25年3月17日、通信制閉課程式が松江北高第1体育館で行われ、松江北高通信制課程が56年の歴史に幕を閉じる。平成25年4月からは、「宍道高校通信制課程」として新たな歴史を刻む。



島根県立宍道高等学校の正門と校舎

「フランス横断の旅」

文・水彩画 村尾 俊治(高11)

平成24年9月6日発、21日着の16日間の旅をした。友人の田中一男氏(70歳までに再度の独旅行の約束)、小生、そしてドイツの友人石原収氏との3人で車によるフランス横断旅行である。

最初に旅行の概要について紹介したい。全走行距離4,000km(日本縦断の2倍)で、フランス横断3,000km・ドイツ1,000kmであり、ドイツのシュトゥットガルトが起点・終点の旅である。

費用実績(会計担当 田中氏)は、1人1日当たり7,500円の貧乏旅行である。現役の時、パリ中心の旅をした。5つ星?ホテルに泊まり、そこそこのレストランで食事、著名な観光名所を見学と言った旅に比べるとフランス的な臭いのしない生活レベルの低い旅である。

安く出来たのは為替が有利であったこと、友人の石原氏の車での移動、加えて彼の精力的な宿探し。毎日3~4軒の宿を探し回り、3人1室で格安の宿を見つけてくれた。道中、小生と石原氏との関係を田中氏は察したと思うが、2人の関係は友情深いものであると勝手に考えている。大先輩に『よき人生とは、よき友人に恵まれる事』と教わったが、真にそう思う。表面的でなく深い友情に根ざしている事が肝心なのは言うに及ばないが。

今回の旅のテーマは「城」である。個人的なテーマとして「絵」になるいろいろな風景に接したと思った。平成23年7月に満70歳を迎えた時、60歳代とは少しく違う事を始めたいと考えた。今までよりもっと細かい観察眼を養いたいとの思いもあり、高校までやっていた水彩画を実に52年振りに始めることにした。そこで「量は質を高める」を信条に、20ヶ月で100枚の水彩画を描こうと、挑戦的な目標を立て、現在は

最終段階に入っている。そんな訳で、今回の挿絵は写真でなく、小生の水彩画を使うことにした。

以下は旅程に沿って旅の様子を綴ることにする。

シュトゥットガルトからフランスへ

ドイツ中央のやや南にあるシュトゥットガルトを出発、シュバルツバルト(黒い森:モミの木)を南下しドナウエッシンゲンへ。以前、ドナウ川を巡る旅(オーストリア、ドイツ)をしたが、ドナウの源泉には行かなかったので、今回 雄大なドナウ川の源泉を訪ねた。



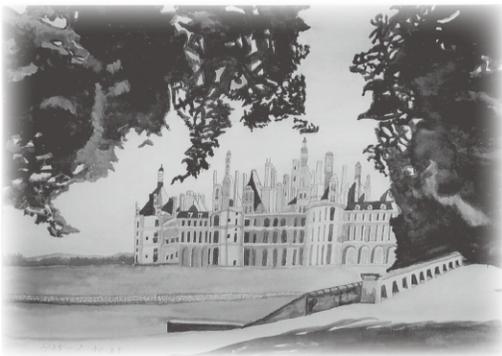
「ぶどう畑と風車」

省エネ都市 フライブルクを経てフランスへ入る。一面にぶどう畑が広がり、ワインフィールドで有名なボーヌへ。ここで郊外にある風車を見つけた。のどかで印象的な風景である。次はいよいよロワール川沿いの城巡りである。

まずはジャンヌダルクで有名なオルレアンでは、銅像やゆかりの家に行く。そして後ほど触れるが、ロワール川沿いの14箇所の間を見た後、ジャンヌダルクの処刑地であるルーアンへ行くことになる。ここには彼女の記念碑が建立され

ている。彼女が活躍した英仏戦争時代の城は戦争用に作られていた。その後は宮殿用に改装され、現在見物できる城は15～16世紀に改装されたものが多い。以下、見物した城を列挙する。

シャンボール、プロワ、ショーモン、アンボワーズ（レオナルド・ダビンチ博物館が隣接されている）、ロッシュ、ヴィランドリー、ランジェ、アゼルリドー、ユッセ、シノン、ソミュール、アンジェなどである。これらの中からロワール地方随一の城としてシャンボール城の絵を載せる。ここの城巡りで唯一の失敗は、シュノンソー城を見過ぎた事。この原因は一時に沢山の城を見過ぎたためである。



「シャンボール城」

世界遺産のモンサンミッシェルへ

ここからは城とお別れし、ブルターニュ地方のサン・マロと世界遺産のモンサンミッシェルを訪ねる。サン・マロの少し手前にディナンの町があり、15～16世紀の古い町並である。ここには、ランドマークのように聳える塔があった。田中氏が登ってくると言って走りだした。彼は前回のドイツ旅行では高所恐怖症だったのでびっくり仰天。本当に上まで登ったのかと尋ねたらイエスとのこと。人は時と場所により、大きく変わるものなのです！

次に行ったサン・マロは小生にとっても初めての所でした。一言で言えば、ここは「城壁に囲まれた町の島」でした。地続きなので入口まで車で駆け、観光客相手のお店がぎっしり並んでいた。ここで食べた海鮮料



「ディナンの塔」

理は大変美味しく、隣席のイギリス客夫婦に我々3人の食事風景をデジカメに撮って貰った。

同じく島であるが、こちらは教会であり、世界遺産であるモンサンミッシェルが次の目的地である。以前来た時は、すぐ近くまで車で行けた。ところが、本土と島を繋ぐ長い道は潮の流れを遮断し、自然環境を破壊する恐れがあると言うことで、現在長い橋を建設中であった。そのため観光客は遠方の駐車場に車を止め、専用シャトルバスで運んでくれるが、このバスは長いので、Uターンがしにくい。

この解決策として、前後に同じ運転席を設け、正にピストン運転そのものである。フランス人の合理性には色々と感じさせられるが、代表例は信号機が不要な「ロータリー式」交差点である。今回ドイツもこれを認め、数年前からどんどんロータリー式に変えている。やれば出来るということである。

モンサンミッシェル名物のオムレツは美味しかった。日本とは味が少しだけ異なるが、久しぶりに和食を食べた思いがした。



「モンサンミッシェル」

（田中氏の独り言：交差点のロータリー文化は日本人には馴染がない。が、4,000kmを走破中に一度も交通事故を目撃しなかったこと。又、信号機が不要な点を考えれば、地震国日本には有効な方式では・・・）

モンサンミッシェルを後にし、いよいよノルマンディーのオマハビーチへ。ここはドーバー海峡に面し、映画「The Longest Day（史上最大の作戦）」で衆知でしょう。先端が霞むほど長い長い砂浜で、16kmに及ぶ上陸艇を組み一斉上陸がなされた海岸です。

印象的なのは、ドイツ側の遺物は何も残されていない。残されている物は全て連合軍側の記念碑等だった。田中氏が記念碑を見ながら言った。この上陸作戦は軍人同士の戦いだったが、太平洋戦争の原爆投下のような民間人を巻き込んだ戦争は絶対に許せない・・・。

ここからセーヌ川沿いに走る。セーヌ川河畔は著名な画家が好んで行き交った所と聞いている。

代表的な所として、画家モネの館があるジヴェルニーへ行く。モネは40歳まで世に知られてなく、40歳になってこの地に家や庭園、有名な睡

蓮の池などを造り印象派の代表と言われる絵を描いたようである。ここでは、世界各地から本当に多くの人が押し寄せていた事に驚かされた。絵の好きな人には必見である。

（田中氏の独り言：モネの作品に加え、彼が買い集めた無数の浮世絵が展示されていた。当時のフランスでは日本文化への憧れが強く、日本人にとっては誇りに思える展示であった）

セーヌ川はご存知のようにパリの真ん中を走っている。渋滞を避けるためパリを避け、南郊外を通って久しぶりにベルサイユ宮殿に行った。例の広い庭園を見たが、ここまで美しい自然美を多く目にしたためか、莫大な財で造られた庭園から感動は得られなかった。

そして、フランスの最後はストラズブルである。歴史的に何回もドイツ領になった地であり、フランス語による最後の授業のあった学校が残っていたが、訪れる時間はなかった。

再びドイツへ

フランスに別れを告げ、ネッカー川沿いにハイデルベルクへ。ここは学生の町と古城（廃墟）で有名である。ケーブルカーで古城に登り市街



「エスリンゲン市の一番美しい風景」

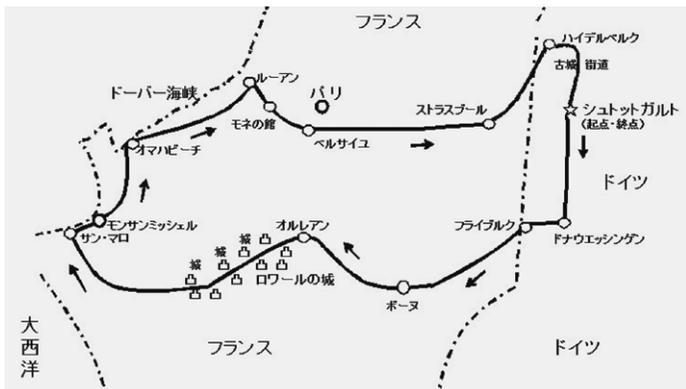
地を一望した後、今度はドイツ古城（廃墟）街道を走り、主に車窓から10箇所の古城を見た。ライン川沿いにある城は修理され、ホテルになっている所が多いが、このネッカー川沿いは崩れかけた城跡のオンパレードである。

そして、ネッカー川の源流に近い出発地 シュトゥットガルトへ無事に帰って来た。ここでは、日本人がラーメン屋をやっていると聞いて、「喜久屋」に行った。拙いラーメンであったが、雪さんと言う若い日本人妻に会った。日本語・中国語・ドイツ語・英語を話す働き者である。旅行では若い女性の働き者を見ると直にコンタクトしたくなる。元気を頂くため、国籍は問わ

ないで会話することは大変楽しい。

小生の第二の郷里エスリンゲン市へ久しぶりに行った。当時お世話になった野菜類を売る店や料理器具を売る店等々を回ったが、大きく様変わりし、なくなっている店には寂しさを覚えた。この地に住んでいたのは、15年～17年前であるから、当然だとは思いが・・・。

最後に、旅の疲れをとるためパッドウルラハの温泉で半日ゆっくりし、その夜はドイツに永住している友人とドイツ女性（友人）を招き、当時からずっと付き合っているイタリヤ料理店「ドメニコ」へ行った。愛想のいい料理人夫婦は元気で、再会を大変喜んでくれた。



全走行図

(注) 水彩画（残念ながら割愛したものも含め）は近畿双松会HPに掲載しました。美しい色彩はそちらでお楽しみください。



エスリンゲンの二人（左：田中氏 右：筆者）

同期会便り（高9・16・22期）

高9期（昭和33年卒業）近畿同窓会 「古稀二年過ぎの九期同窓会」

報告者：志賀楽浪 坂本隆男

日時／平成24年5月8日(火)

“還暦を更に一周して古稀を二年過ぎた”という表現が松江高校九期卒業生の年齢となっており、卒業以来実に五十四年の星霜を経たことになる。その間に九期近畿同窓会は、大阪、神戸、京都、奈良の四都市を持ち回っての開催方式で継続されてきている。近畿同窓会といっても最近の傾向は近畿のみならず、松江や東京などの他所からの出席者が多くなってきており、盛会が続いているのは嬉しい限りである。

今回は奈良での同窓会となった。新緑が萌え立って美しい三笠山麓の「奈良万葉若草の宿“三笠”」に五月八日のこと、もと紅顔（？厚顔ではない）の美少年（？）や美少女（？）たちが全国より三十一名集結した。女性陣がとりわけ華やいで元気溼漑としており、お若く感じられるのは小生の僻み目によるものだけではないようである。

松江高校を卒業してから半世紀を過ぎて、各人の長い人生を経てここに集ったことになる。しかし顔を合わせると長い時間経過を全く感じさせら



れなく、当時の腕白とお転婆を彷彿とさせられて、たちまちに懐かしさと親しみが湧き出してくる。同窓生とは実に良いものである。

このようにお会いして人生のエールを交わすことは、今までのお互いの人生を共に称え合うことであり、それが今後の人生に向かう大きな励みとなってくる。

宴会後は、幹事連の好コーディネートにより奈良散策組とカラオケ組に別れて、初夏の爽やかさ漂う古都の街に消えていった。次回は神戸での再会を約して。

高16期（昭和40年卒業）

報告者：梅木隆志

平成24年4月22日(日)、常会場と定めた「がんこ寿司曾根崎本店」で近畿地区の同期会を開きました。

昨年と若干メンバーの入れ替わりがありました。今年も14名の参加で、来年は20名の大台突入といきたいところです。

二次会も北方50mの「ニューミュンヘン」と決めており、卒業後47年ぶりの再会、数年ぶりの再会、1年ぶりの再会を、心ゆくまで楽しく過した時間でした。



◆参加者（前列左から）三吉孜・三成宏二・佐々木康雄・伊藤育子・山田敬子・渡辺美智子（後列左から）坪倉司郎・車野巧悦・森光雄・松本耕司・土田和男・森藤哲章・井上伸久・梅木隆志

高22期（昭和46年卒業）

「関西同期会」 発起会 ～大阪市北区天神橋「へそ」にて～

報告者：鶴羽孝子

日時／平成24年12月7日(金)

11月の「近畿双松会総会」に3名が出席したのを契機に、関西在住の同期生全員に声をかけて同期会を開こうという話がもち上がりました。

早速、12月7日に大阪天満宮近くの隠岐の島出身の方が経営している居酒屋「へそ」にて発起会を催しました。参加者はこじんまりと4名でしたが、松江での「還暦を祝う同窓会」の写真を酒の肴に、「この人だれ?」「〇〇さんのツーショットが多いねえ」などと言いながら、在学当時は知らなかった者同士であるにもかかわらず、旧交を温めるかのようなひとときを過ごしました。

松江での同窓会には、遠方のため出席できなかった人もたくさんおられると思われるので、還暦の年度内に還暦記念同期会をやりましょうということになりました。

3月16日(土)、第1回「22期関西同期会」開催に向けて、計画を進めています。



◆参加者（写真左から）石橋善和・大浦綾子・村田貢・鶴羽孝子(旧姓 石橋)

高22期男子（昭和46年卒業）

報告者：村田貢

日時／平成25年1月30日(水)

22期男子5名、はからずも北新地で再会しました。卒業時2Rの4人の飲み会にたまたま当日大阪に居た村田が合流しました。内村、村田は卒業時以来の再会です。

◆参加者（写真左から）石川章、太田朗夫、村田貢、内藤清志、内村昭



「こんにちは、仲間入りです」

「総会・懇親会に参加して」

大浦 綾子 (高22)



ふるさと松江や高校時代のことを、ゆっくり振り返る余裕もなく、ただもう慌ただしく過ごしてきたのですが、還暦を迎えたのを機に、思い切って「2012年近畿双松会総会・懇親会」に参加させていただくことにしました。

会場に一步足を踏み入ると、「中央電気倶楽部」のレトロなインテリアのせいか、高校時代に一挙にタイムスリップ。鷹揚な物腰、穏やかな眼差し、笑声の間に聞こえる懐かしいイントネーション、ふるさと山陰の美しい風景との再会でした。

そして、もう一つの出逢いがありました。同期の村田貢さんと鶴羽孝子さんです。「同窓」というのは不思議なものですね。初対面なのに、直ぐに意気投合し、いつのまにか同期会の準備会という名目の「飲み会」を約束していました。その後も、高22期の近畿同期会の実現に向けて、連絡を取り合う日々が続いています。

「総会・懇親会」に引き続き、1月11日の「事務局新年会」にも、誘われるままに無謀にも、鶴羽さんと二人で飛び入り参加をしました。とてもフランクな親睦の場に同席させていただき、心からリラックスして楽しむことができました。

押田会長をはじめとして、諸先輩からかけていただいた優しいお言葉に、もし自分に兄や姉がいたら、こんな温かい気持ちになるのだろうか、幸せな心地に満たされました。素敵な先輩方との交流に勇気を得、また、「松江北高」という母校を改めて誇りに思う今日この頃です。

共に還暦を迎えた夫と二人、孫の成長を楽しみにしながら、第二の人生を歩み出そうとしています。仕事をしていたときは違う形で、ゆるやかに社会参加を続けながら、1日1日を大切に過ごしていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願ひいたします。

「初めましてよろしくお願ひします」

竹江 章 (高34)



2012年11月、初めて近畿双松会総会及び親睦会に出席させていただきました。そこは、改めて長い伝統と多くの諸先輩方に支えられた、母校松江北高を感じられた時間でした。

近畿双松会総会の案内は毎年いただいていたのですが、正直真面目に出席を考えたことはありませんでした。それが、夏に北高バレーボール部OB会へ出席したとき、同級生だった山岡さんから「去年、双松会総会へ出席したけど、同年代の知り合いがおらんかったんで出てくれ。」と頼まれ、今回出席することとしました。

事前にWebで前回の総会の様子を見ると自分より年上と思われる方が多く、実際に出席してみると確かに同年代の方は、ほとんど出席されていませんでした。(おまけに、近くの席には叔母の姿が…)

そんな少し緊張気味で臨んだ総会でしたが、ご来賓の方々のご挨拶やご講演を聴くうちに、懐かしい高校時代の思い出が甦ってきました。そして最後は舞台上がって校歌を歌っていました。

しかしながら、今回は先輩方々とあまりお話しする機会を持てませんでした。これは次回以降の楽しみにしておきます。

北高から地元の大学へ進み卒業後、学生時代から興味があった自動車の開発に関われる仕事を求め、また当時から関東・東海地方は大地震の危険があると言われており、それを避けて兵庫県へ出てきました。が、結果的には阪神大震災を経験してしまいました。早いもので兵庫に来て25年以上が経ち、島根で過ごした時間より長くこちらで生活しています。

このたび、近畿双松会総会へ初めて出席させていただき、北高を卒業して近畿地区でご活躍の方が大勢おられることを実感いたしました。

私も負けないように頑張ろうと気持ちを新たにしています。

今後とも、よろしくお願ひします。

近況報告

この近況報告は、昨年の総会の出欠回答時（10～11月）を中心として、昨年の会報発行以降にお寄せいただいた近況を加えて構成しました。

半年以上の時差がある場合もありますこと、ご承知おきください。

中60 景山 章

当日のご盛会を祈っております。本間恵美子は姪です。

中61 菊田光男

高齢となり遠慮させていただきます。ご盛会でありますように。

中62 吉田祝雄

無病息災で過していますが、体力の衰退を痛感しています。

中63 泉田春樹

実業の世界を卒業した後は、俳句結社「苑」を主宰してきて多忙です。皆様によろしく。

中63 肥塚隆正

来年は参加できるかどうか考えるこの頃です。お蔭さまで水墨、陶芸、木彫、漢詩の作成等で暇をつぶしております。お互いの健康を祈ります。

中64 鐘築光紀

椎間板ヘルニアにより歩行困難の状況が残念です。ご盛会を祈ります。

中64 三島 功

元気に米寿を迎えました。卒業後70年が過ぎました。中学時代のことは昨日のごとく、なつかしく思い出します。

中67 片山 恂

パーキンソン病のため歩行が少し困難です。どうぞ皆様によろしくお伝えください。

中68 青戸元也

役員の皆様、会の運営、ご苦労様です。酔生無死、時が経ってゆきます。

中69 杵築武彦

老々介護の毎日です。

高1 宇藤二男丸

当日、地域の行事に参加予定がありますので欠席させていただきます。

高1 平山武秀

元気に過ごしておりますが、加齢と共に身体の衰えはどのようなありません。当日は先約があって出席できず残念です。

高1 和田亮介

残念ながら欠席します。皆様によろしく。ご盛会を祈ります。

高2 金坂喜夫

以前患った脳梗塞の為、適当な距離の病院を選び、そこまでウォーキングをしながらリハビリを受けています。毎週1回、梅田まで囲碁を打ちに行きます。

高2 久保田幸雄

80歳になりました。漸く老人になった気分です。事務局の皆様、いつもご苦労さんです。

高2 千葉新一

松高2期同期会（三日月会）は毎年11月に会食を催し再会を重ねています。昨年（H23）は13名が参加、80歳の高齢爺さん、楽しく旧交を温めています。

高2 枅谷 崇

昨年度の会報の「近況報告」欄を見ておりましたら、高10期の面白紘さんがご自分の姓と旧面白村について触れておられました。私どもの両親は、晩年は湯町（JR玉造温泉駅のすぐ南側）に住んでおりました。もう少し奥へ行くと「面白谷」というのだと母から聞かされておりましたので、父が亡くなりました折、私は次の悼句を供えました。

父逝くや面白谷は風ばかり

あれからもう30年経ちますが、この少々珍しい地名とともに、古里の穏やかな自然と温かい人

近況報告

情を、あらためて思い返しております。

(参考) 高10 面白さんの今年の近況報告「玉湯町に「姫神温泉たまご おもじろ釜」があり (JR 玉造温泉駅近く)、江戸時代は面白村があった。我が名前と関係ありか?」

高4 須藤信幸

病気療養の為、入院中です。

高4 永井 寛

みのむしプロ・スケッチ教室を主宰。月に7回 (水・木・土曜=隔週で月2回。金曜=月1回)。受講者は60歳代の女性が多い (男性も大歓迎)。現在、会員約30人。大阪を中心に関西の好スポットへ午前中スケッチに。その後のランチ&ティータイムが大好評。永井携帯:090-7889-1324まで。

高4 藤原小夜子

一つづつ年を重ねながら、私たちの子どもの頃の穴道湖を思います。右の湖岸を一畑電車が遠くなってゆき、左の湖岸から蒸気機関車が白い煙を見えかくれさせながら近づいてきます。今、生きづらい世の中で、さわやかに生きてゆけるのは、あの風景がいつもあるからと思っています。

当日は参加できないと思います。主人も入退院の繰り返し。私も小さな自治会のために日々あわただしいことです。

皆さま、どうぞ楽しい日となりますよう。

高5 青木謙整

只今、京都島根県人会の会長をしていますので、京都にマンションを持ち、時々宿泊します。寺は西来寺と言い、京丹波町須知にあります。

高5 成田良美

欠席で相いすみません。当日は大学時代の友人と「神話博しまね」見学に行きます。よりよってこんな日取りになってしまいました。ご盛會を祈ります。

高5 山田 稔

地元の老人会の尺八同好会に入会し、毎月2回

集って指導を受けています。11月で1年になりますが、歌謡曲など吹けるようになりました。

高6 田村稔久

松江・東京・大阪と毎年各地持ち回り開催の6期同窓会”どげな会”を、今年は喜寿の祝いを兼ね三地区合同会として10月14～15日 (昨年) 松江で、100名超の参加者が集い盛大に開催されます。

二日目は古事記編纂1300年イベントに合わせ、世界無形文化遺産登録の「佐陀神能」を觀賞、「皆美館」での昼食会と、地元世話人は超多忙との事です。

高6 森岡敏眞

毎回発行の近畿双松会報には感心します。

10～11月の会合の多いことには閉口しますが、第2土曜日は二つの会が重複し、交互に出たりして調整しますが、今回は別の会合と重なり残念です。

高7 小川一基

加齢とともに、健康を意識した生活スタイルにシフト!

高7 田淵美喜子

いつも有り難うございます。

高7 玉井洋子

お蔭様で、日々なんとか無事に過しております。当日は所用があり、欠席いたします。ご盛會をお祈りいたします。

高7 平尾美淑

おかげさまで穏やかな日々を過しております。

高9 有本亮正

病いと仲よく付き合っています。今年の厳しい暑さと抗ガン剤との闘いでした。制作活動を生きがいに、気力は負けないように、無理せず、あきらめず、一日一日を大切に過しています。

韓国ソウル仁寺洞での現代美術国際展 (8/22

～28)、弘前市のボレアスジャパン展(8/30～9/3)を無事終えました。

高9 坂本隆男

「人生の今ロスタイム 白き雲」 ロスタイムの長からむことを・・・

高9 伴 稔也

平成24年5月8日、松高9期近畿同窓会奈良大会は、「三笠」において、31名の参加(近畿21名、近畿外10名)で、夕方の東大寺ミニツアーを含めて盛大に開催されました。ご協力、有り難うございました。

高9 真野 透

体力維持のため、9月からスポーツクラブに入会して初心者メニューで汗を流しております。ひと風呂浴びて、帰宅後のビールの旨さが一番の効用のようです。

高9 渡部 優

死なない程度に、ボツボツ、暮しています。

高9 佐々木悦子

お世話になります。

高9 清水良子

いつも何かとお世話になり、ありがとうございます。

高9 松井駿子

勝手ですが、先約のため失礼します。

高10 天野正彦

お世話ご苦労さまです。盛会を祈ります。今回、私事用件と重なり出席断念します。

元気で過していますが、年々老いを感じ、若者がうらやましい限り。友人とも会いたいのに本当にゴメンナサイ。重ねて出席各位のご健勝を祈ります。

高10 面白 紘

6月19～20日(昨年)、中学校の同窓会が隠岐の島で開催されたが、19日に台風が近畿地方に接近したため飛行機が欠航となり、残念ながら出席できなかった。1年ぶりの松江も夢と消えた。

高10 佐和田 丸

故郷・飯南町の墓を京都西本願寺の大谷本廟に分骨納骨しましたので、枚方からの墓参が随分楽になりました。家族で墓参のあと、京都のまちを観光したり、食事をしたりするのが楽しみで、生きがいのひとつ増えました。

3人の子どもにそれぞれ2人づつ子が生まれ、孫が6人になりました。みな個性があり、面白く、時折訪ねてきて顔を合わせると元気をもらうような気がいたします。ことに今年の正月は3家族12人と私ら二人の14人となり、たいそう賑やかなものになりました。

・「結婚相談」をしています。本人昭和40年生、阪大薬卒、薬剤師 土地家屋調査士。良い方であればご紹介ください。(別ページ、名刺広告先まで)

高10 清水義男・小枝子

5月(昨年)に東京での湖山会(松高10期関東地区同期会)に出席してきました。60人が一堂に集い、懐かしい、楽しい、青春に返ったひとときでした。

近畿双松会には、昨年30数年ぶりに出席させて戴きましたが、今回は都合で失礼します。ご盛会を心よりお祈り申し上げます。

高10 野津美津子

いつもご案内、ありがとうございます。病気もせず、元気に暮しております。

高11 太田 厚

この4月(昨年)から加古川市の老人大学に入りましたが、クラブ活動への入会が義務付けられているようで、民謡クラブに所属しました。土曜日の午後1時から2時間が練習(定期)で、11月23日の発表会に向け11月10日が最後の仕上げ練習のため、欠席せざるをえなくなりました。折角、

近況報告

ご案内をいただきながら申し訳なく思っています。

高 11 小久江良雄

今年4月(昨年)に、仕事の関係で松江を訪れました。松高卒業後、初めての訪問。時間を見つけ、松江城、小泉八雲旧居跡等を訪れ、なつかしさで一杯の気分を enjoy。

高 11 神門英明

11月18日(昨年)は、OBPでの「島根物産と観光展」に行くよう、近所の友達と計画したので今回も欠席です。

高 11 高本紘史(松江市在住)

元気が取りえ…、と思っていた小生ですが、今夏(昨年)は全て棒にふってしまいました。恒例の市民レガッタも小さな一室でさびしく…。仲間の報せと新聞で状況を知りました。いつものように押田氏の応援で活気づいたようですが、小生にとっては残念なことでした。

いつかは大阪での懇親会に参加しようと考えていますので、よろしく。

高 11 湯川好満

11月11日(日)、茨木市でフリーマーケットがあり、当日は丹波市でその準備のため欠席します。毎年、丹波産黒豆を中心に無農薬農産物を販売します。

高 11 安部光子

やっと秋らしくなってきました。お世話いただき大変有り難うございました。元気に過ごしています。皆様のご健康、お祈りいたします。

高 11 鈴木洋子

残念ですが、旅行の予定があり、申し訳ありません。

高 11 中川陽子

介護で飛び回っております。

高 11 森田方子

ご案内いただき、いつも有り難うございます。時々ホームページを開けて、楽しい集いのご様子、見せていただいています。失礼してすみません。

高 12 須田典尚

病院通いはしていますが、田舎暮らしを楽しんでいます。時々帰松してリフレッシュしています。

高 12 高田浩二

10/6～7(昨年)、17Rの仲間5人と広島で旧交を温めます。10/20、S36年卒京都在住者と会合(松江から錦織君参加)。

高 12 山本輝夫

世紀の祭典ロンドン五輪・パラリンピックも閉幕。宴の後の寂しさを感じるこの頃です。脳外科研究員としてオックスフォード大勤務の三男ファミリーも、フットボール”なでしこ対フランス戦”の応援に行き、孫3人も興奮絶叫!!勝利の熱気がメールからも伝わってきました。

なでしこ・サムライJのアスリート達の活躍に、日本人としての自信と誇りを持ったようで、大きな夢に向かい、凛とした国際人へと成長することを願うのみ。

高 12 松浦弥生

関西に出て50年、すっかり大阪のおばちゃんになりました。

高 13 安部康久

昨年6月(一昨年)の株主総会にて副社長(月桂冠㈱)を退任し、現在は顧問になっています。

高 13 岩永克美

ご連絡いただき、ありがとうございます。元気であります。なつかしい思いがつのりですが今回も欠席します。申し訳ありません。

高 13 桑原洋史

先日トルコ・カップドキアでバルーンに乗りました。不思議な世界があるものだと感心しました。

高13 原 良平

会の運営に日頃ご尽力頂き、感謝申し上げる次第です。同期の仲間の出席があまりないとの情報で、年次別出席者数を又の機会にお知らせくださいませ。ご盛会をお祈り申し上げます。

高13 加藤和子

5年前に手術をして、今はすっかり元気になりましたが、無理はできないので、仕事もやめ、のんびり気ままに過ごしております。

総会の日には既に他の予定が入っておりますので欠席いたします。皆様（特に同期の方）のご健康を祈ります。

高13 河村容子

11月13～15日（昨年）、長崎での卓球の試合参加の為（旅行と遊びを兼ねて）欠席いたします。健康維持の為、細々と続けております。

高14 泉 宏佳<千葉市在住、東京双松会前事務局長>

地元千葉市に根を張るべく活動中、NPO等に注力しています。

高14 内田一三夫

元気でやっています。今回、急用のため欠席します。

高14 木幡晃正

いつもお世話方、ありがとうございます。

高14 三好洋二

ご苦労さまです。当日、大学時代の同窓会の幹事をつとめますので、欠席させていただきます。

高14 齋藤丸子

4月（昨年）より、地元の児童館で仕事をしています。月～土：10～18時とフルタイムなので、当日も仕事のため欠席します。ご盛会をお祈りします。

高16 井上伸久

お世話になります。

高16 長谷川賢治

週に1度のハングル教室、畑には週に2回、行っています。

高16 松本耕司

12月（昨年）、非常に親しい北高同期友人が、眠っている間に「心筋梗塞」で突然の不帰の人に。私はNPOで心肺蘇生とAEDの講習会の普及を図っているだけに、余りの皮肉さに呆然としました。夫婦はやはり同室で眠った方がいいのかもしれませんが。

高16 三吉 孜

相変わらずの生活ですが、近畿安来会（会長）活動の軌道乗せに腐心しています。

高16 森藤哲章

10月21日開催「里山歩くぞ！ハイキング」の下見の為、松本耕司副会長たちと柳生の里を3回歩きました。

太安万侶の墓陵を有する奈良市田原地区に医師として勤務してから、健康のためダイエットに励んでいます（5kgは減量しました）。

高17 岡 久夫

皆様（特に17期前後の方）の元気なお顔にお会いしたいと思いながら、欠席続きで真に申し訳ございません。

小生、年金生活・悠々自適ままならず、現役続行中です。あと？ヶ月か？、会社次第の状況ですが、退職以降の家庭生活が描けておりません。年齢相応の体力にもなっており、何か良い方策等ご教示をお願いしたい今日この頃です。

高17 久保田 実

息子が京大に在学中のこともあり、老骨にムチ打って働いています。

近況報告

高 17 後藤研三

当日、他の研究会と重なっており、欠席させていただきます。

高 19 新見泰朗

(一財法人) 自衛隊援護協会で勤務し、退職自衛官の就職援護を実施して7年になります。残り2年足らずとなりましたが、後輩自衛官の為、最後まで頑張ります。自衛官の採用をお考えの方がおられましたらご一報ください。

高 19 江守久美子

初めて参加させていただきます。よろしく願います。

高 20 金見幸夫

37年間、大阪府立の養護学校、支援学校で障がいのある子ども達と接し、昨年3月(一昨年)をもって退職いたしました。城陽市の老人福祉センター長に就きましたが、体調不良(腰痛)のため、この8月末(昨年)、職を辞しました。

高 20 山崎麻里子

家庭の都合により、39年間勤めた仕事を辞めました。後ろ髪を引かれる思いでしたが、NPO法人大阪府高齢者大学校に入学して一変。今は毎日が天国で楽しいです。もう仕事をしたいとは思いません。人間って順応性がありますね!

高 20 渡邊ゆかり

この春(昨年)、新設された大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校の図書館に結局通うことになり、頑張っただけ働いています。

司書がひとりなので超多忙ですが、スタート地点に立てたことは緊張しつつもやりがいがあり、また、若い生徒たちからエネルギーをもらって、楽しく毎日を送っています。

高 21 小林敏昭

還暦を過ぎ、身体の衰えを感じつつ仕事に汗しています。ご盛會を祈ります。

高 21 本多一彦

3月(昨年)に退職し、現在、枚方市教委で教育推進プランナー、プール学院大学非常勤講師として勤務いたしております。

高 22 石川 章

4/20(昨年)に東京から引っ越してきました。

高 22 村田 貢

救急の日(9月9日)に救命講習を受け修了証をいただきました。人命にかかわる非常に重〜い体験でした。

高 22 大浦綾子

還暦同窓会に出席したのをキッカケに、近畿圏での同期会を意識しはじめました。よろしく願います。

高 22 大上千恵

8月12日(昨年)に、昭和46年度卒業の還暦を祝う同窓会に出席しました。なつかしい顔に出会えてうれしかったです。ホームページで当日の写真が見れるという友人からのメールがあり、早速検索しました。便利な世の中になったものどつくづく感心しました。

高 23 和田邦孝

当日、仕事のため出席できません。河原校長に会えなくて残念です。

高 24 野津正明

総務省近畿総合通信局長です。昨年(一昨年)7月、アナログTV放送終了、地デジ完全移行!

高 24 小川ひとみ

臨床検査技師から転職し、5年前より学研教室を楽しんでおります。かわいい小学生がいっぱいいます。

高 24 水野順子

老化と闘いながら、テニスとゴルフに励んでいます。一度は出席してお話をうかがいたいと思います。

ます。お世話様です。

高 27 三浦 清

当日は社用があり、出席できません。10数年
間、総会・懇親会とも出席できず申し訳ありませ
ん。役目から、休日は社用が多く出席できない状
況です。都合がつけば、次回は是非出席したいと
思います。宜しくお願いします。

高 27 菅尾恵子

同期の友人に誘われて、今回初めて参加します。
よろしくお願い致します。

高 28 山元香代子

連絡、いつも有り難うございます。栗東の幼稚
園で働いています。8月に教員免許更新の授業を
滋賀大で1週間受けました。あと何年働けるかわ
かりませんが、教職にははなれがたい魅力があり
ますね。

高 29 太田春樹

日々、忙しくしております。総会・懇親会の当
日は休みを取ることができましたので出席いたし
ます。皆様にお会いできるのを楽しみにしており
ます。

高 32 浅沼吉正

今回は仕事の都合で欠席させていただきます。

高 34 田中修一

三井住友建設(株)大阪支店で、近畿自動車道紀勢
線(和歌山)のトンネル工事を行っています。

高 36 稲葉 隻

海外勤務が長く、実家(京都)に郵便が届いて
いましたが、4月(昨年)から日本勤務ですので、
これからは東京の住所へお願いします。

高 43 今田理恵

鳥大医学部卒業後、鳥大附属病院で研修。現在
は大阪府和泉市にある府中病院で小児科医として
勤務しています。

高 45 永井寛子

子どもが生まれました。

高 46 宮廻光則

毎週末、松江に帰省しておりますが、宜しくお
願い致します。(山陰合同銀行大阪支店勤務)

高 51 荒井悦加(荒井さんは実業団エディオンの
陸上競技選手)

合宿中のため参加できず、すみません。

高 63 星野佑樹(北高新卒)

今年度(昨年度)の理数科卒業生で、現在、近
畿圏の大学に通っている者は6名いますが、頻繁
(月に2、3回)に顔を合わせ、一緒に観光等を楽
しんでいます。(宮城、東京、名古屋、岐阜から
同期理数科を呼んできたこともありました)。こ
れが3年間、同じクラスで過ごした事の力なのか
と感心しているところです。

以上

<協賛広告>

佐和田登記測量事務所(松江市)顧問
飯南町・関西頓原会 会長
結婚相談(連絡は必ず封書でお願いします)

佐和田 丸 (松高10期)

〒573-1182 大阪府枚方市御殿山町11-33-610
電話・FAX 072-848-7417
メール malu122@nifty.com

婚活 本人昭和40年生 男性 阪大薬卒業薬剤師
土地家屋調査士 ご紹介ください。

編 集 後 記

今号の最大のキモは「会則の改定」(26～28頁)にあります。松本耕司事務局長が文字通り心血を注いで起案した改定草稿が役員会に諮られたわけですが、俎上に乗らなかったのは第1条の名称「本会は近畿双松会と称する」だけだったのではないのでしょうか(関西双松会にすべきという声はありませんでしたから)。厳密さでは定評のある日本国政府の法令事前審査もかくやと思わせる活発な議論があり、さまざまなアドバイス、注文、質問等を反映させて出来上がったのがこの新しい会則です。膨大な実務を全般にわたって担われた松本事務局長に改めて感謝を申し上げます。

有志の集いから卒業生みんなの会へ——。歴史的な組織の衣替えを済ませて今年度はいよいよ近畿双松会設立55周年です。総会や各種行事等、大いに盛り上げていきたいと思えます。ご協力、よろしくお願いいたします。



東北大震災から2年余り。この編集後記で取り上げるのも3回目になります。進まぬ復興に苦々しく思うことが多くて気が滅入りますね。職場でつくった東日本緑化基金はまだしつこく続けていて、近く3回目の植樹寄付を送ります。



何年かこの会報の制作編集をしてくれていた友人が家庭の事情で出来なくなり、急きょ息子に頼みました。レイアウト等にお見苦しい点があるとしたら、彼の経験不足と私の指導力不足ゆえです。ご容赦ください。

(渡辺 悟=高20)

近畿双松会報

2012(平成24)年度版 通巻54号

発効日/平成25年(2013年)3月31日

編集兼発行者/近畿双松会

発行所/近畿双松会事務局

所在地/〒550-0002

大阪市西区江戸堀1-21-35

(株)トーヨーコーポレーション内

TEL 06-6443-2062

FAX 06-6443-9736

郵便振替口座/00910-0-103665

近畿双松会